

## 高齢者実態調査実施状況について

### 1 調査対象者、調査手法、対象数、回収数、回収率

(※各調査の内容等詳細は、別紙参照)

No	調査票 (調査対象者)	調査手法	対象数	回収数	回収率		
市民調査	1	高齢者一般調査 (65歳以上)	郵送	標本調査	4,000	2,596	64.9%
	2	一般調査 (40歳以上64歳以下)	郵送 + WEB	標本調査	3,000	1,472	49.1%
			(うちWEB回答)		(463)	(15.4%)	
	3	介護保険在宅サービス利用者調査 (要支援)	郵送	標本調査	1,000	691	69.1%
	4	介護保険在宅サービス利用者調査 (要介護)	郵送	標本調査	4,000	2,228	55.7%
	5	介護保険サービス未利用者調査 (要支援・要介護)	郵送	標本調査	2,000	1,318	65.9%
	6	小規模多機能型居宅介護・ 看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	郵送	標本調査	1,100	595	54.1%
	7	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	郵送	全数調査	695	278	40.0%
8	特別養護老人ホーム入所申込者調査	郵送	標本調査	3,000	1,911	63.7%	
合計					18,795	11,089	59.0%
事業所調査	9	特別養護老人ホーム調査	WEB	全数調査	166	100	60.2%
	10	介護老人保健施設調査	WEB	全数調査	87	45	51.7%
	11	介護サービス事業所 (居住系) 調査 (特定施設、GH、サ高住、住宅型有料)	WEB	全数調査	786	337	42.9%
	12	介護サービス事業所 (訪問・通所系) 調査 (居住系サービス、居宅療養、福祉用具貸与、 福祉用具販売単独を除く)	WEB	全数調査	2,793	1,487	53.2%
	13	居宅介護支援事業所調査	WEB	全数調査	888	534	60.1%
	14	地域ケアプラザ調査	WEB	全数調査	143	118	82.5%
	15	医療機関調査 (認知症に関する調査)	WEB	全数調査	2,790	939	33.7%
合計					7,653	3,560	46.5%
従事者調査	16	ケアマネジャー調査	WEB	全数調査	3,679	1,286	35.0%
	17	訪問介護員 (ヘルパー) 調査	WEB		1,288		
	18	施設介護職員調査	WEB		1,895		
	19	外国人介護職員調査	WEB		221		

備考1 全数調査における調査対象数は令和4年9月1日時点の数

備考2 17~19調査については、母数を把握していないため、対象数・回収率の算出は行わない

## 2 高齢者実態調査の調査結果（抜粋）について

注1：回答数の少ない選択肢（「その他」「無回答」）等は、省略している場合があります。

注2：調査票の表題については、以下の略称を使用しています。

番号	調査票の表題	略称
01	高齢者一般調査（65歳以上）	⇒ 高齢者一般
02	一般調査（40歳以上64歳以下）	⇒ 一般40～64歳
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	⇒ 要支援
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	⇒ 要介護
05	介護保険サービス未利用者調査	⇒ 未利用
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	⇒ 小多機・看多機
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	⇒ 定期巡回
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	⇒ 特養申込者
09	特別養護老人ホーム調査	⇒ 特養
10	介護老人保健施設調査	⇒ 老健
11	介護サービス事業所（居住系）調査	⇒ 居住系
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	⇒ 訪問・通所系
13	居宅介護支援事業所調査	⇒ 居宅介護支援
14	地域ケアプラザ調査	⇒ ケアプラザ
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	⇒ 医療機関
16	ケアマネジャー調査	⇒ ケアマネジャー
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	⇒ ホームヘルパー
18	施設介護職員調査	⇒ 施設介護職員
19	外国人介護職員調査	⇒ 外国人介護職員

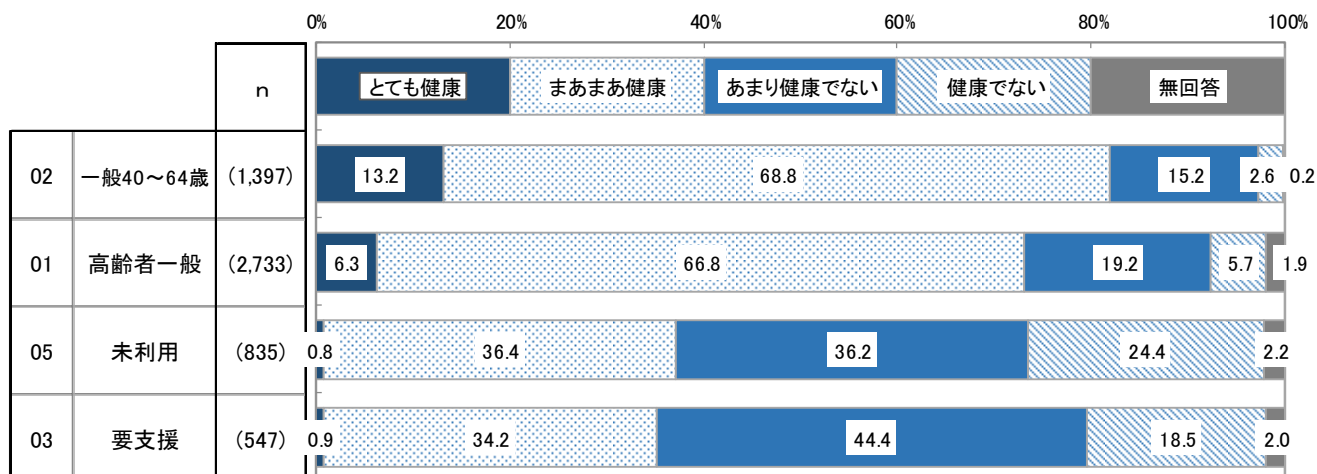
## 高齢者保健福祉・介護保険施策に係る結果

### I 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して

#### 1 介護予防・健康づくり

##### ●市民の健康感

- ✓ <高齢者一般>の「とても健康」「まあまあ健康」は73.1%。
- ✓ <要支援><未利用>では「健康でない」「あまり健康でない」が60%を上回っている。



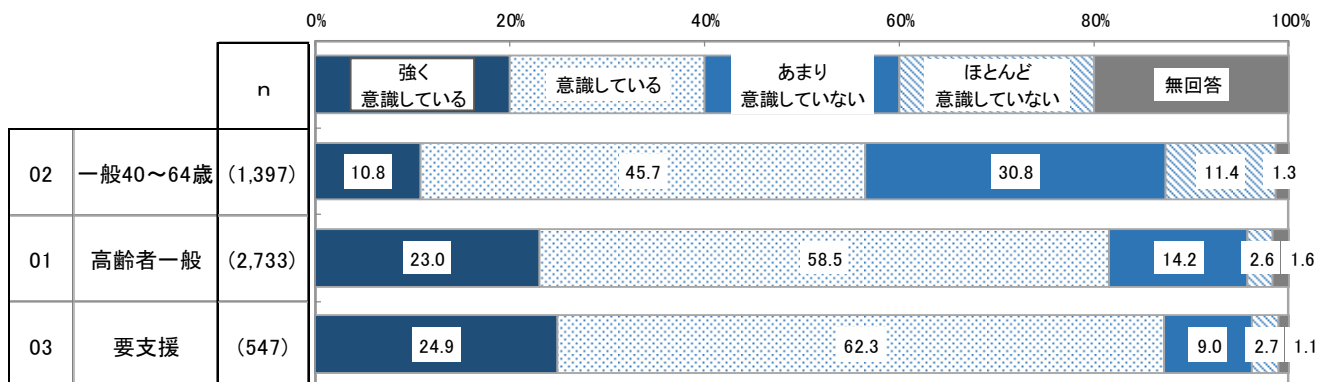
##### ●3年前と比べた生活の変化<新規設問>

- ✓ <高齢者一般><一般40~64歳>ともに「体力や筋力が落ちた」が半数以上を占めている。
- ✓ <高齢者一般>になると、「病院に通院するようになった」「友人・知人が少なくなった」が増加する傾向がある。

		(%)						
調査数 (n)		体力や筋力が落ちた	た病院に通院するようになった	友人・知人が少なくなった	気分が落ち込むことが多い	たケガや病気のために入院し	引越しをした	あてはまるものはない
02 一般40~64歳	(1,397)	61.5	14.0	12.1	21.3	5.5	8.4	23.9
01 高齢者一般	(2,733)	70.8	30.9	23.3	16.4	11.4	3.7	13.1

## ●介護予防の意識

- ✓ <高齢者一般>の「強く意識している」「意識している」は81.5%。
- ✓ <要支援>は<高齢者一般>より「意識している」が多く、<一般40～64歳>は<高齢者一般>より少なくなっている。



## ●介護予防のために取り組んでいること

- ✓ 「取り組んでいることがある」が9割以上を占めている。
- ※「取り組んでいることがある」は19個の取組のいずれかを選択した回答者の割合

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	03 要支援 (547)
取り組んでいることがある	93.4	98.6	98.4
特にない	5.8	0.9	1.1
無回答	0.8	0.5	0.5

<取り組み内容TOP3>

年1回は健康診断を受けている
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)
掃除や洗濯、調理など、自分で行うことは自分でする

<取り組み内容TOP3>

口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)
掃除や洗濯、調理など、自分で行うことは自分でする
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている

<取り組み内容TOP3>

かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)
掃除や洗濯、調理など、自分で行うことは自分でする

## 2 社会参加

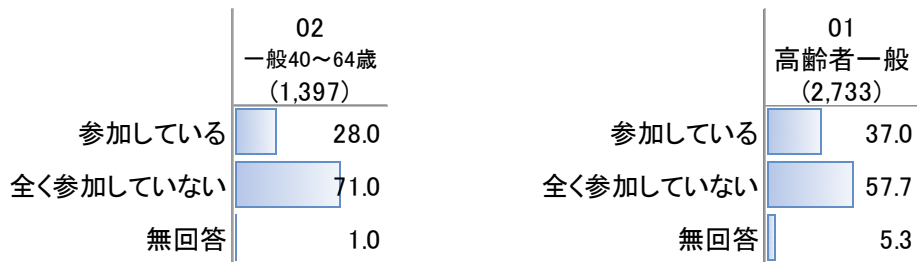
### ●就労状況

- ✓ <高齢者一般>では、働いている人は 29.0%。
- ✓ <一般 40~64 歳>では、働いている人は 83.2%で、大半が「ほぼ毎日」働いている。

		(%)						
		調査数 (n)	ほぼ毎日	週に 2~3日	月に 数日	頻度は 決まってい ない	仕事は していない	仕事は したいが働 いていない
02	一般40~64歳	(1,397)	65.1	12.9	1.8	3.4	12.0	4.8
01	高齢者一般	(2,733)	12.4	9.1	3.3	4.2	66.3	3.4

### ●地域活動への参加状況

- ✓ <高齢者一般>では、「全く参加していない」は 57.7%。
- ✓ <一般 40~64 歳>では、「全く参加していない」は 71.0%。



#### <参加している活動TOP3>

自治会町内会の活動・行事
ジムやランニングなどのスポーツ活動
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動

#### <参加している活動TOP3>

自治会町内会の活動・行事
体操、歩こう会、グラウンド・ゴルフ等の健康・スポーツ活動
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動

### 3 生活支援

#### ●心配事・悩みごと

- ✓ <高齢者一般>では、「自分の健康のこと」が 62.1%と最も多く、要支援・要介護認定を受けている人でも同様の結果となっている。
- ✓ <一般 40~64 歳>では、「家族・親族の健康のこと」が 55.4%と最も多く、「生活費等経済的なこと」「精神的なゆとりがないこと」「時間的なゆとりがないこと」が他に比べて多くなっている。

		(%)										
	調査数 (n)	自分の健康のこと	家族・親族の健康のこと	生活費等経済的なこと	ひとり暮らしや孤独になること	病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	精神的なゆとりがないこと	趣味や生きがいがないこと	時間的なゆとりがないこと	安心して住める場所がないこと	心配ごとや悩みはない	
02	一般40~64歳 (1,397)	49.7	55.4	36.1	10.5	8.9	17.5	8.5	17.1	3.1	13.0	
01	高齢者一般 (2,733)	62.1	46.7	23.6	10.1	8.7	6.5	5.9	4.0	1.8	13.0	
05	未利用 (835)	78.1	43.5	23.1	17.6	13.8	10.9	11.7	3.8	2.8	6.3	
03	要支援 (547)	78.2	38.4	22.5	16.8	15.0	9.7	9.0	2.7	2.4	4.6	
04	要介護 (1,797)	69.7	35.9	22.4	14.2	8.7	11.4	15.0	2.3	2.1	10.5	
06	小多機・看多機 (483)	62.9	31.5	24.4	14.9	7.5	8.7	13.0	1.2	3.3	14.1	
07	定期巡回 (233)	64.4	28.3	24.5	18.9	8.6	9.4	17.6	1.3	3.4	12.4	

## ●今後必要になる生活支援（市民、訪問・通所系、ケアプラザ）

- ✓ <要支援><要介護><未利用>では、「医療機関・福祉施設等への送迎」が最も多く、「緊急時の通報システム」「生活援助」が続いている。
- ✓ <地域ケアプラザ>では、「通いの場への送迎」が74.6%と最も多く、次いで「見守り・安否確認」となっている。

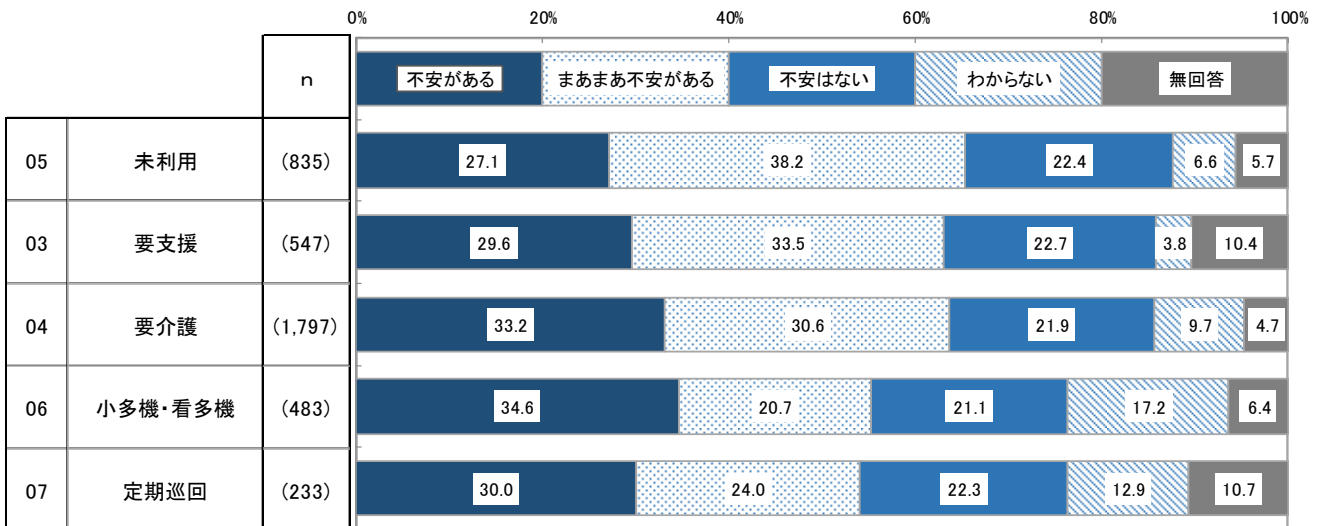
		(%)															
調査数（n）		医療機関・福祉施設・役所への送迎	緊急時の通報システム	生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）	通いの場（体操・運動・定期的な交流）	通いの場への送迎	訪問による理美容	ごみ出し	歯科などの訪問診療	医療機関・福祉施設・役所への送迎前後の付き添い	栄養改善を目的とした配食	見守り・安否確認	介護等が必要になった場合の住宅改造	紙おむつの購入	話し相手	特になし	
05	未利用	(835)	28.1	25.9	27.7	22.8	16.8	11.5	15.3	12.1	18.1	12.9	17.1	14.3	9.2	9.1	13.9
03	要支援	(547)	24.9	19.4	19.4	16.1	15.0	14.8	14.4	12.1	11.5	10.8	9.9	9.5	5.9	4.9	17.7
04	要介護	(1,797)	20.6	17.0	15.0	12.6	11.4	15.2	8.3	15.2	14.0	10.5	11.6	6.6	12.2	8.0	22.5
12	訪問・通所系	(1,487)	14.6	14.4	8.7	14.2	12.2	4.9	8.9	3.2	14.0	9.7	19.6	0.0	2.7	10.4	20.1
14	ケアプラザ	(118)	55.1	21.2	39.0	55.1	74.6	0.8	28.8	1.7	47.5	11.0	55.9	3.4	0.8	34.7	0.8

## Ⅱ 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

### 1 在宅介護・リハビリテーション

#### ●在宅生活の不安<新規設問>

- ✓ 全ての対象者で「不安がある」「まあまあ不安がある」が半数を上回っており、特に<要支援><要介護><未利用>は6割を超えている。
- ✓ 「不安はない」は全ての対象者で2割程度となっている。



#### ●在宅生活の不安の内容<新規設問>

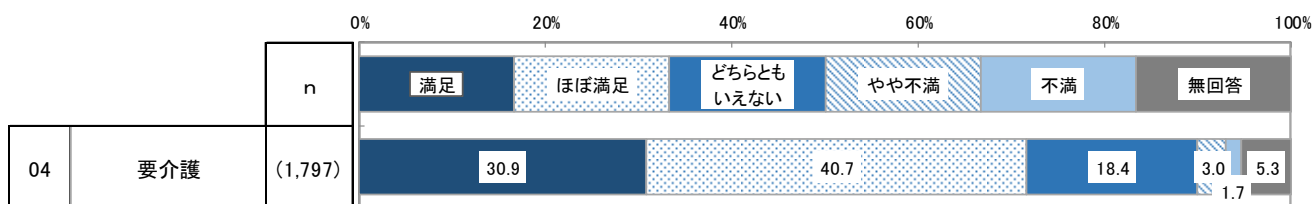
- ✓ <要支援><未利用>では、「買い物や通院等の外出」「食事や掃除などの身の回りの家事の負担」といった自身の行動に関する不安が多い。
- ✓ 一方で、<要介護><小規模・看多機><定期巡回>では、「自分を介護する家族の負担」が最も多くなっている。

サービス	調査数 (n)	不安の内容 (%)												
		自分を介護する家族の負担	買い物や通院等の外出	災害時・緊急時の対応	食事や掃除などの身の回りの家事の負担	介護サービスの費用負担	自宅の居住環境	必要に応じた医療サービスの有無	必要に応じて知人・友人との交流	介護している家族への気配り	同居している家族への気配り	希望通りの介護サービスの有無	理解・認知症に対する地域の対応	具体的にはわからない
05 未利用	(545)	36.3	43.3	33.6	42.9	22.2	13.2	11.4	7.7	14.9	15.2	5.1	5.3	
03 要支援	(345)	34.8	53.9	42.6	44.6	13.3	15.4	10.4	9.3	9.3	9.0	3.2	4.6	
04 要介護	(1,145)	56.4	37.8	36.2	34.8	24.3	14.8	10.1	10.0	9.1	8.7	4.3	4.4	
06 小多機・看多機	(267)	62.9	28.5	37.5	33.0	33.0	13.1	15.7	10.9	7.9	14.6	11.2	3.7	
07 定期巡回	(126)	49.2	23.8	38.9	35.7	31.7	13.5	8.7	12.7	4.8	9.5	7.9	4.0	



### ●現在受けている介護サービスの満足度

✓ 「満足」「ほぼ満足」が71.6%。



### ●小規模多機能型居宅介護サービスの利用状況

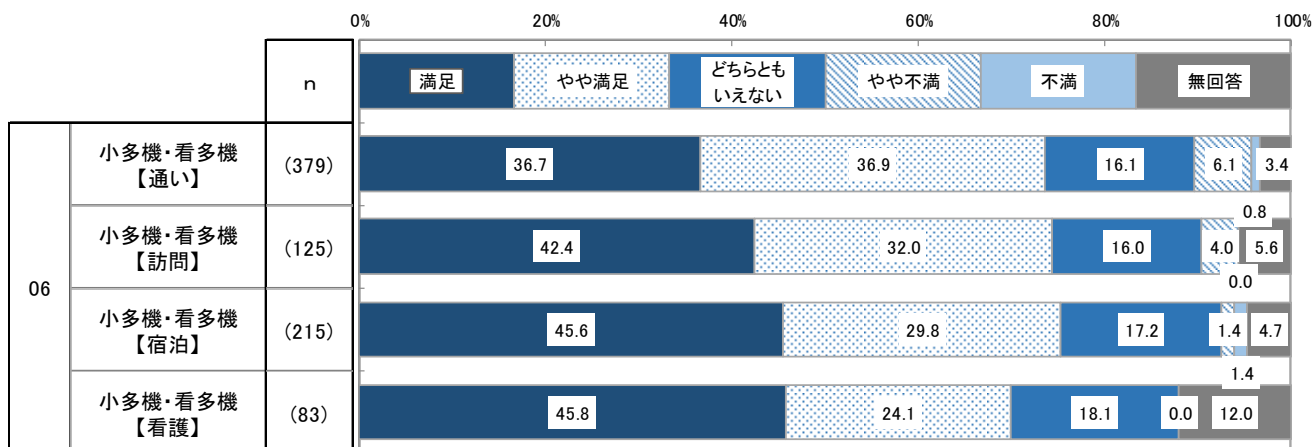
✓ 「通い」が78.5%と最も多く、次いで「宿泊」が44.5%。

		調査数 (n)	通いサービス (%)	宿泊サービス (%)	訪問サービス (%)	看護サービス (%)
06	R4 2022年	(483)	78.5	44.5	25.9	17.2

### ●小規模多機能型居宅介護サービスの満足度

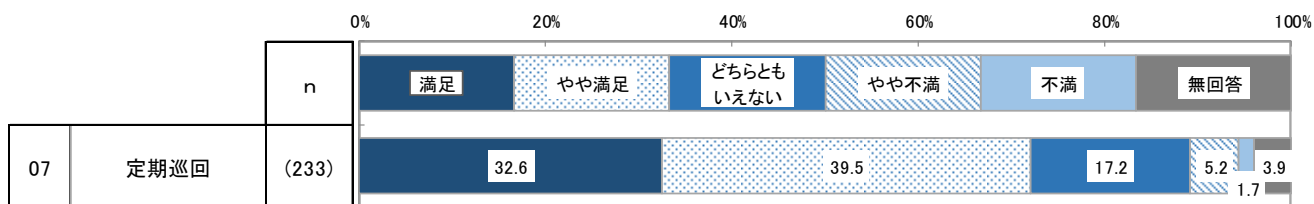
✓ 「満足」「やや満足」が、全てのサービスで6割を超えている。

✓ 特に、訪問・宿泊・看護は「満足」が4割を上回っている。



## ●定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの満足度

✓ 「満足」「やや満足」が72.1%。



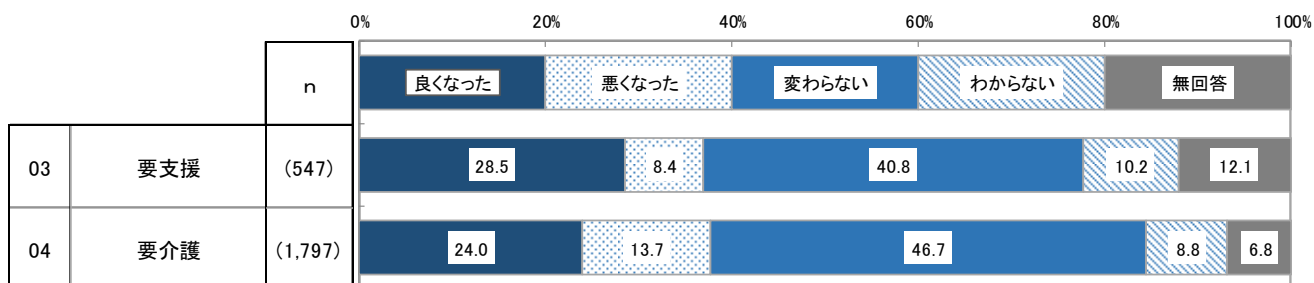
## ●介護サービス以外に必要なサービス

✓ <要支援>では、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」が最も多く、<要介護>では「緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が最も多くなっている。

調査項目	調査数 (n)	自宅に医師が訪問して診療してくれること	夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	受け入れられる短時間食事の通所サリハビスの利用	入浴のみ、食事の通所サリハビスの利用	介護者の入院など、緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	ふだん通っている介護事業所などに希望すれば泊まれること	必要なサービスはない
03 要支援	(221)	46.6	29.9	29.9	28.1	18.6	9.0	16.3	
04 要介護	(977)	30.4	23.1	19.1	21.4	32.9	13.8	21.5	

## ●要介護認定の維持・回復状況

✓ <要支援><要介護>ともに、「良くなった」が「悪くなった」に比べて多く、「変わらない」は約4割となっている。



## ●要介護認定が回復した要因

- ✓ <要支援><要介護>ともに、「介護保険サービスを利用し、改善した」が半数を上回っており、「自分でできる限り動くようにしたため」が続いている。

		(%)							
		調査数 (n)	介護保険サービスを利用し、改善したため	自分でできる限り動くようにしたため	医療機関等で専門家の指導を受けたため	治療を受け、骨折が治ったため	治療を受け、病気が治ったため	認知症が改善もしくは安定したため	わからない
03	要支援	(156)	55.1	53.2	43.6	26.3	10.9	0.6	-
04	要介護	(431)	61.3	39.4	35.7	17.6	14.8	4.6	2.1

## ●介護サービスを利用していない方が、介護サービスを利用しない理由

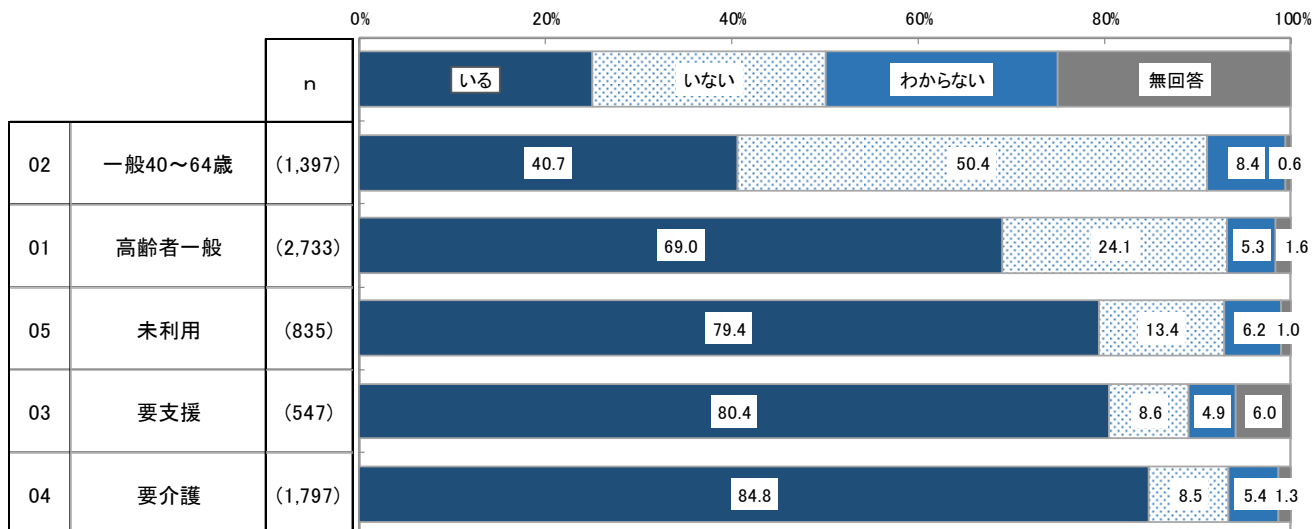
- ✓ 「より重度の要介護状態になった時に利用したい」が 53.9%と最も多く、次いで「介護者の体力が衰えたときに利用したい」となっている。

	05 未利用 (835)
現在はサービスが必要な状態ではないが、より重度の要介護状態になったとき利用したい	53.9
介護者の体力が衰えたとき利用したい	18.1
サービスの内容がよく分からない	15.9
家族が介護をするため必要ない	13.7
家族などの介護者が急に病気になった時などに、ショートステイを利用したい	12.3
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用している	11.4
使いたいサービスがない	8.1
介護サービスを利用したいが、経済的な負担が大きい	8.0
家族以外の介護を受けたくない	7.5

## 2 在宅医療・看護

### ●かかりつけ医の有無

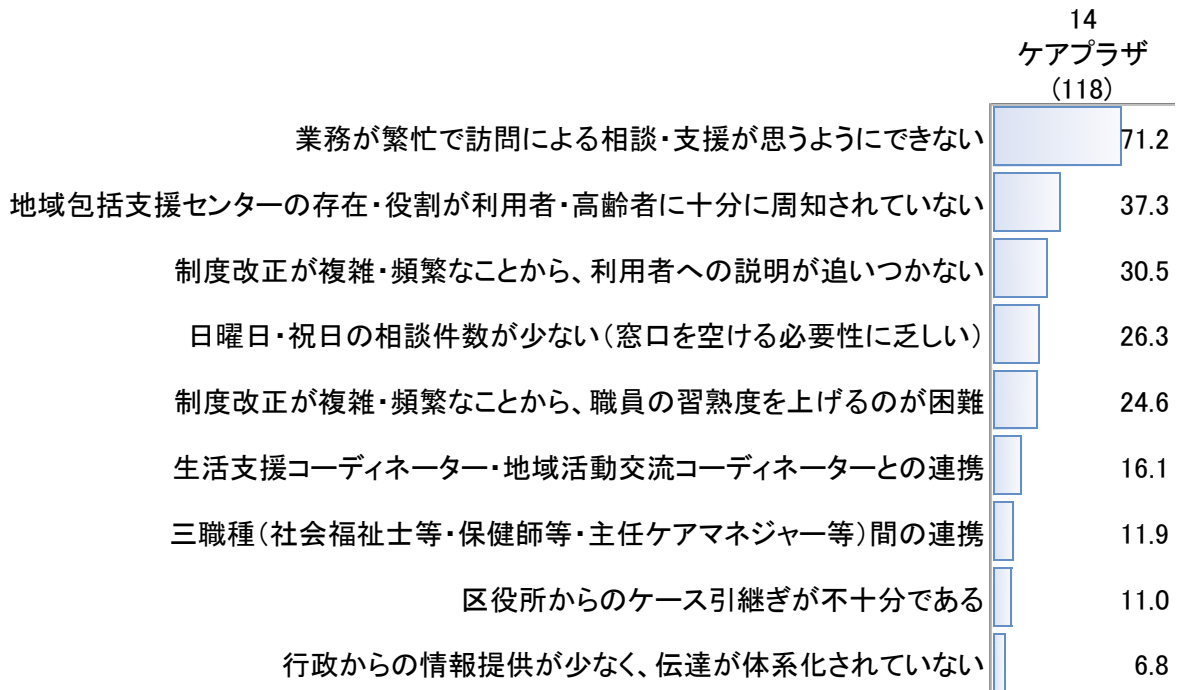
- ✓ 要支援・要介護認定を受けている人では「かかりつけ医がいる」は約8割を占めており、＜高齢者一般＞では69.0%、＜一般40～64歳＞では40.7%となっている。



### 3 保健・福祉

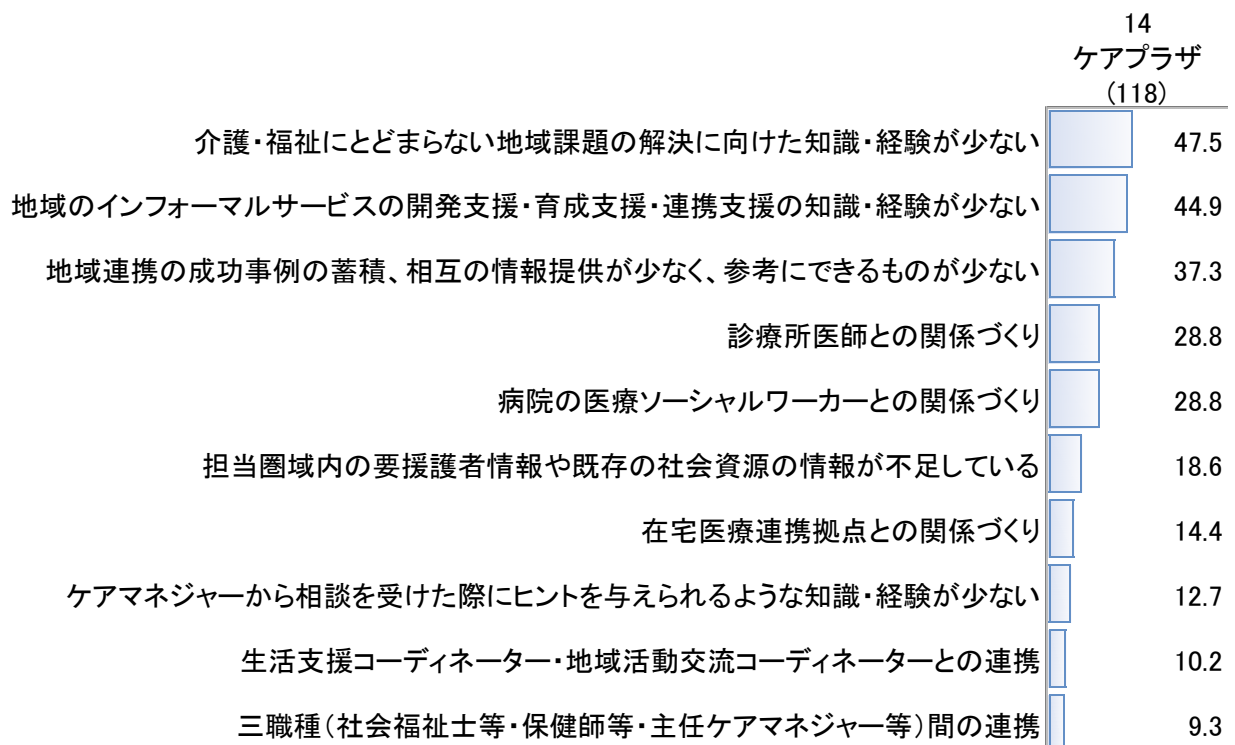
#### ●総合相談・支援事業の課題（ケアプラザ）

- ✓ 「業務が繁忙で訪問による相談・支援ができない」が71.2%と最も多く、次いで「地域包括支援センターの存在が十分に周知されていない」が37.3%となっている。



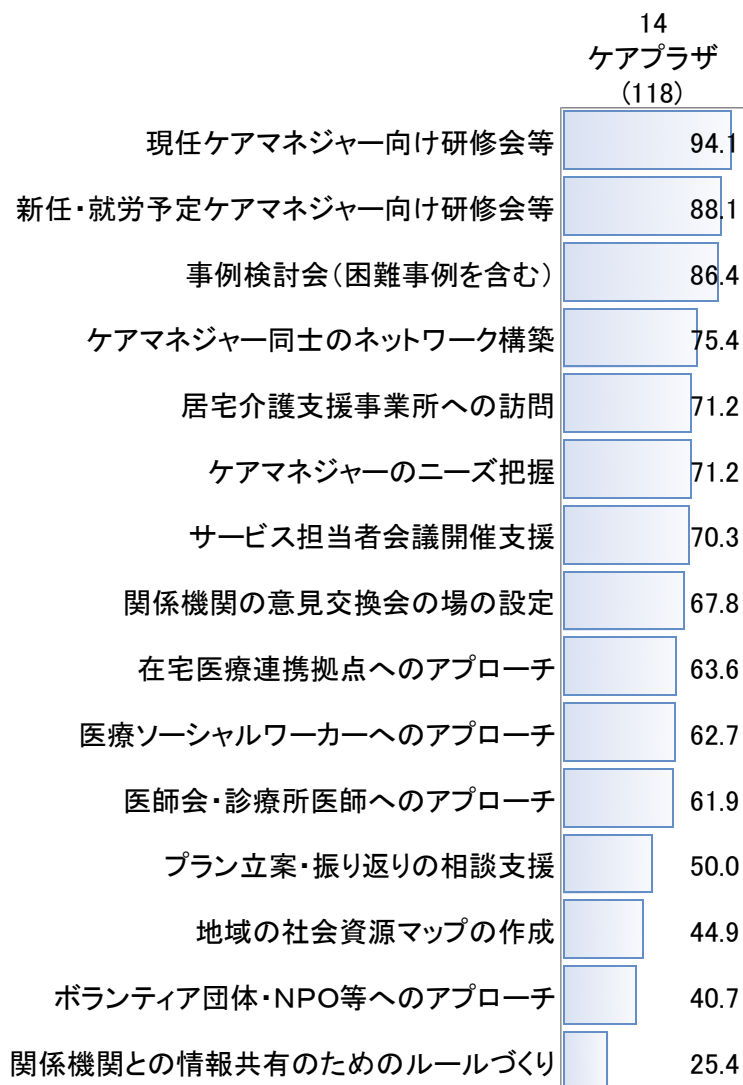
#### ●包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題（ケアプラザ）

- ✓ 「介護・福祉にとどまらない地域課題の解決に向けた知識・経験が少ない」が47.5%と最も多く、次いで「地域のインフォーマルサービスの開発支援・育成支援・連携支援の知識・経験が少ない」が44.9%となっている。



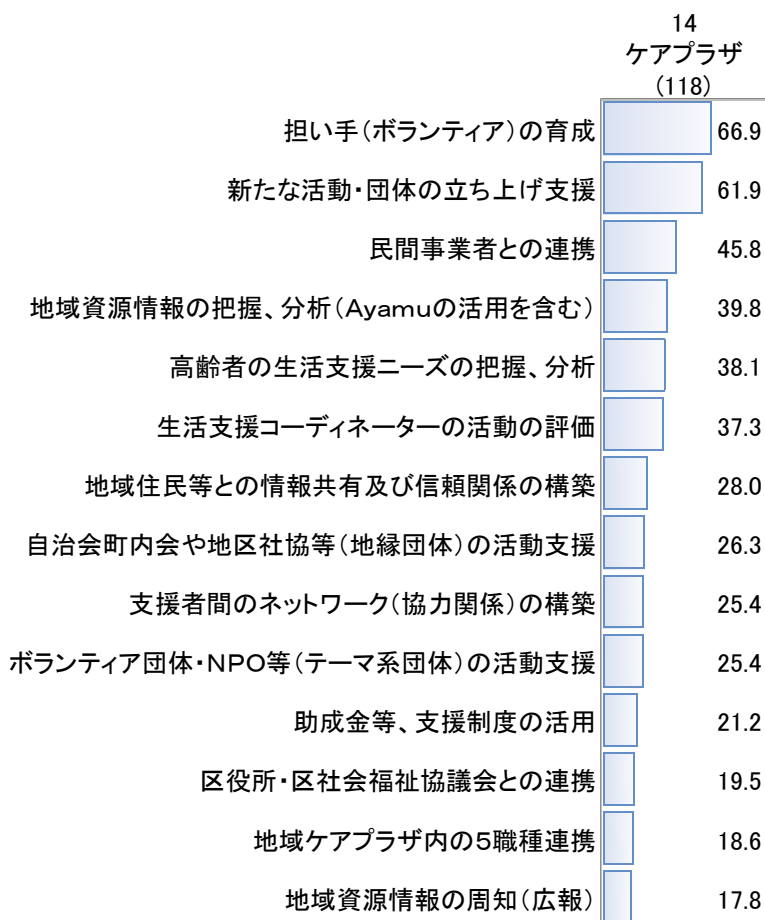
## ●実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援（ケアプラザ）

- ✓ 「現任ケアマネジャー向け研修会等」が94.1%と最も多く、次いで「新任・就労予定ケアマネジャー向け研修会等」が88.1%となっている。
- ✓ 一方で、「地域の社会資源マップの作成」や「ボランティア団体・NPO等へのアプローチ」「関係機関との情報共有のためのルール作り」といった地域支援に焦点があたった支援は半数以下となっている。



### ●生活支援体制整備の課題（ケアプラザ）

✓ 「担い手（ボランティア）の育成」が66.9%と最も多く、次いで「新たな活動・団体の立上げ支援」が61.9%となっている。



### ●介護施設（事業所）が連携している地域組織（特養、老健、居住系）

✓ 全ての対象で「自治会・町内会」が最も多く、6割を上回っている。

		（%）							
		調査数（n）	自治会・町内会	ボランティアグループ	学校関係	民生委員・児童委員	家族会	企業	連携をとっていない
09	特養	(100)	81.0	46.0	45.0	27.0	16.0	5.0	5.0
10	老健	(45)	68.9	37.8	22.2	24.4	4.4	6.7	15.6
11	居住系	(335)	69.3	25.4	17.6	29.9	11.6	6.3	13.7

### ●介護施設（事業所）の地域組織との連携内容（特養、老健、居住系）

- ✓ 全ての対象で「地域の行事への参加」が最も多く、7割を上回っている。
- ✓ 「災害対策・避難訓練」は連携している事業所の中でも半数程度となっている。

		(%)									
		調査数 (n)	地域の 行事への 参加	災害 対策・ 避難 訓練	招 待 事 業 所 イ ベ ン ト への	小 学 校 ・ 中 学 校 の 体 験 学 習	地 元 商 店 街 や 企 業 か ら の 商 品 等 購 入	講 師 と し て 指 導 し て も ら う	成 認 講 座 の 開 催	サ ポ ー タ ー 養 護	
09	特養	(89)	73.0	56.2	41.6	40.4	11.2	4.5		2.2	
10	老健	(35)	80.0	42.9	45.7	25.7	8.6	8.6		2.9	
11	居住系	(267)	74.9	46.8	33.7	16.9	9.4	4.1		8.2	

### ●自宅での主な介護者

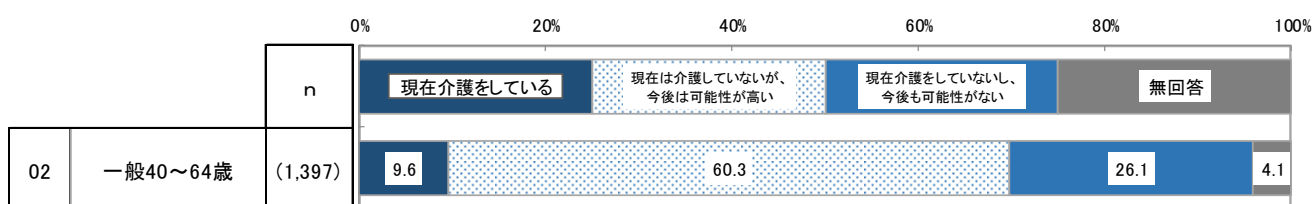
- ✓ <未利用>では「配偶者」が最も多く、それ以外の介護サービス利用者では「子」が最も多くなっている。
- ✓ 特に、<小規模・看多機>では、「子」が52.0%と他に比べて多くなっている。

		(%)						
		調査数 (n)	子	配 偶 者	ホ ー ム ヘル パー 等 介 護 の 専 門 職	そ の 他	介 護 し て い る 人 は い な い	無 回 答
05	未利用	(835)	23.0	28.1	0.6	3.4	19.6	25.3
03	要支援	(547)	23.9	22.1	7.1	4.9	21.0	21.0
04	要介護	(1,797)	35.4	34.1	6.4	5.9	5.2	13.0
06	小多機・看多機	(483)	52.0	17.4	5.6	5.9	5.4	13.7
07	定期巡回	(233)	36.5	12.4	22.3	6.1	3.4	19.3
08	特養申込者	(1,406)	32.8	20.1	11.7	9.6	10.2	15.6



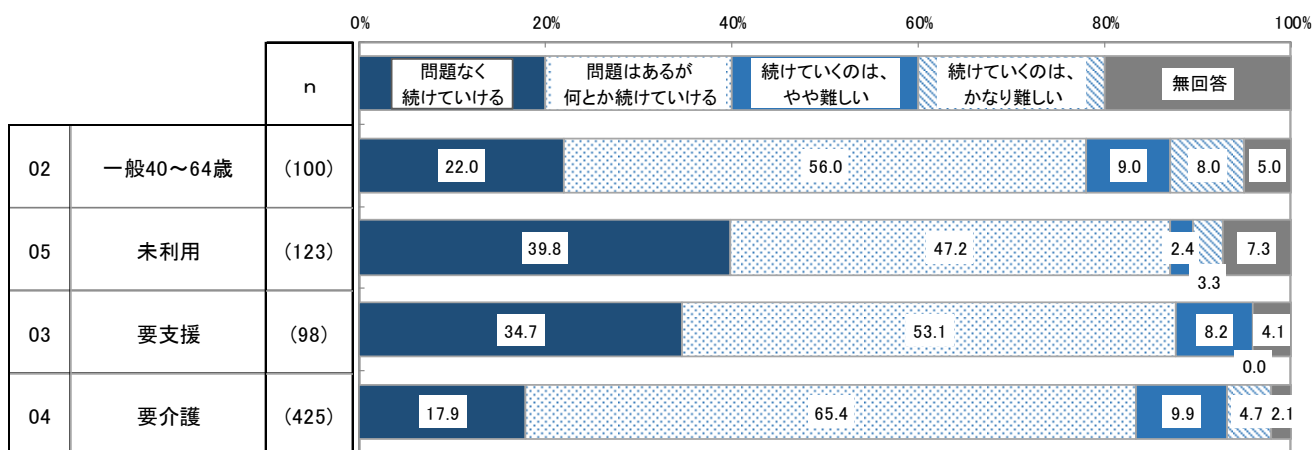
## ●自分が介護をしている家族の有無（一般40～64歳）

- ✓ 「現在家族の介護をしている」が9.6%となっており、「今後可能性がある」を含めると、対象者の約7割に家族を介護する可能性がある。



## ●介護者の仕事と介護の両立

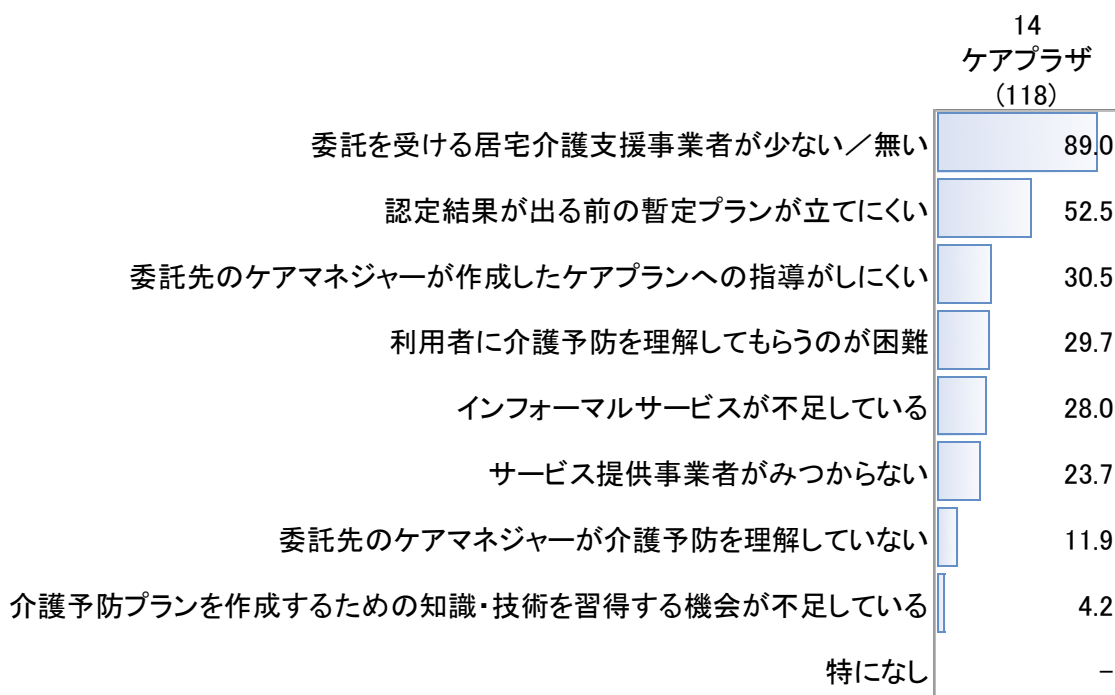
- ✓ 全ての対象者で「問題はあるが、何とか続けていける」が半数近くを占めており、「やや難しい」「かなり難しい」は2割以下となっている。



#### 4 医療・介護・保健福祉の連携

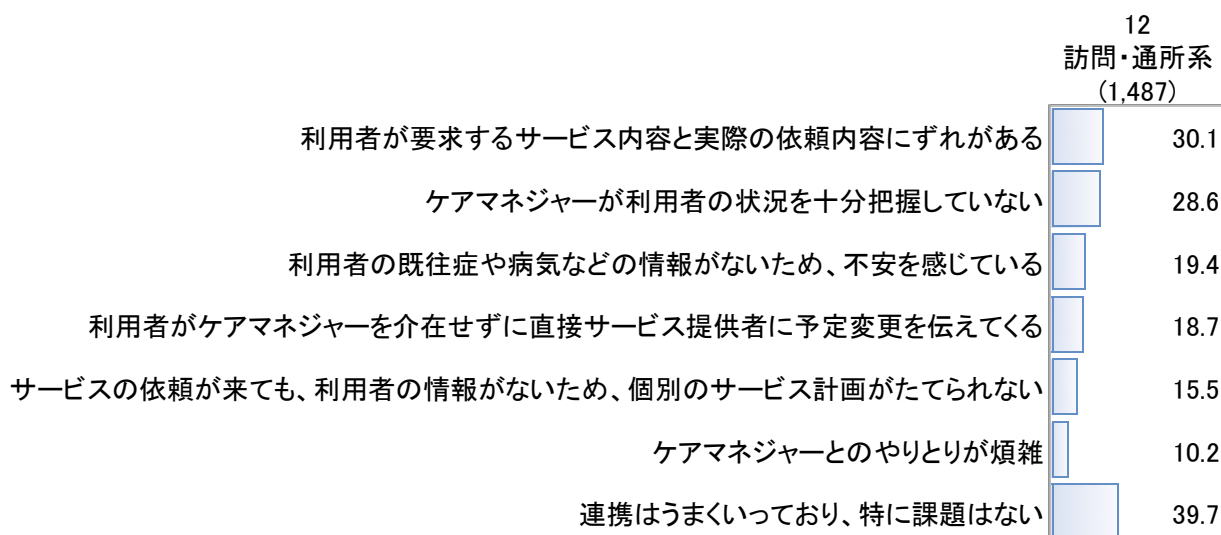
##### ●介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題（ケアプラザ）

- ✓ 「委託を受ける居宅介護支援事業所が少ない/無い」が 89.0%と最も多く、次いで「認定結果が出る前の暫定プランを立てにくい」が 52.5%となっている。



##### ●介護事業所がケアマネジャーと連携する上での課題（訪問・通所系）

- ✓ 「利用者が要求するサービス内容と実際の依頼内容にずれがある」が 30.1%と最も多く、次いで「ケアマネジャーが利用者の状況を十分把握していない」が 28.6%となっている。

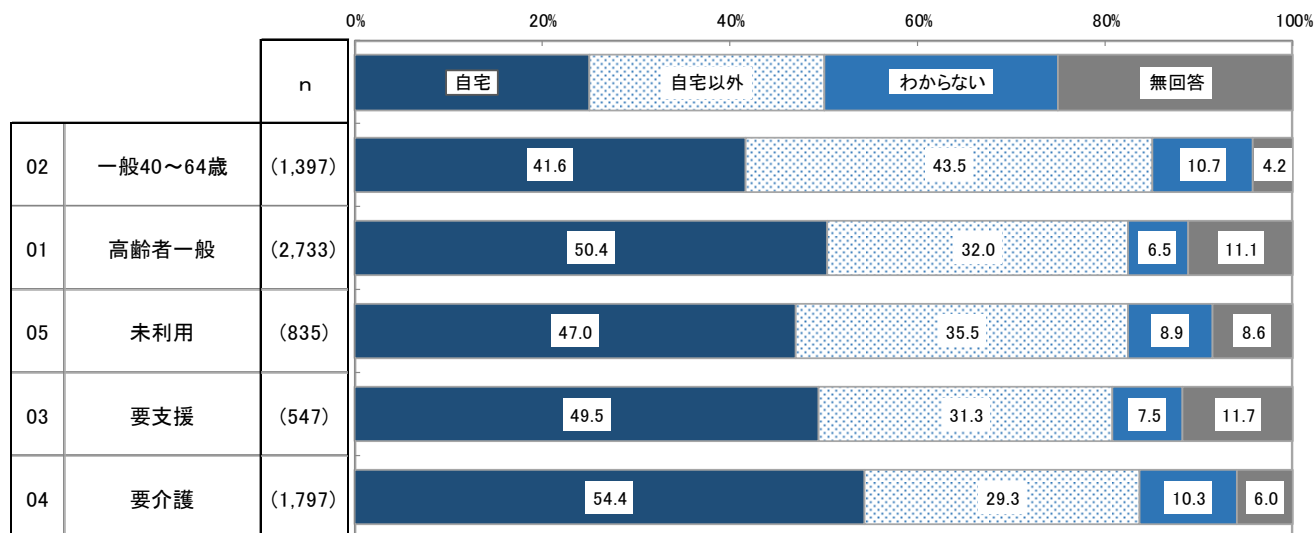


### Ⅲ ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

#### 1 個々の状況に応じた施設・住まいの整備・供給

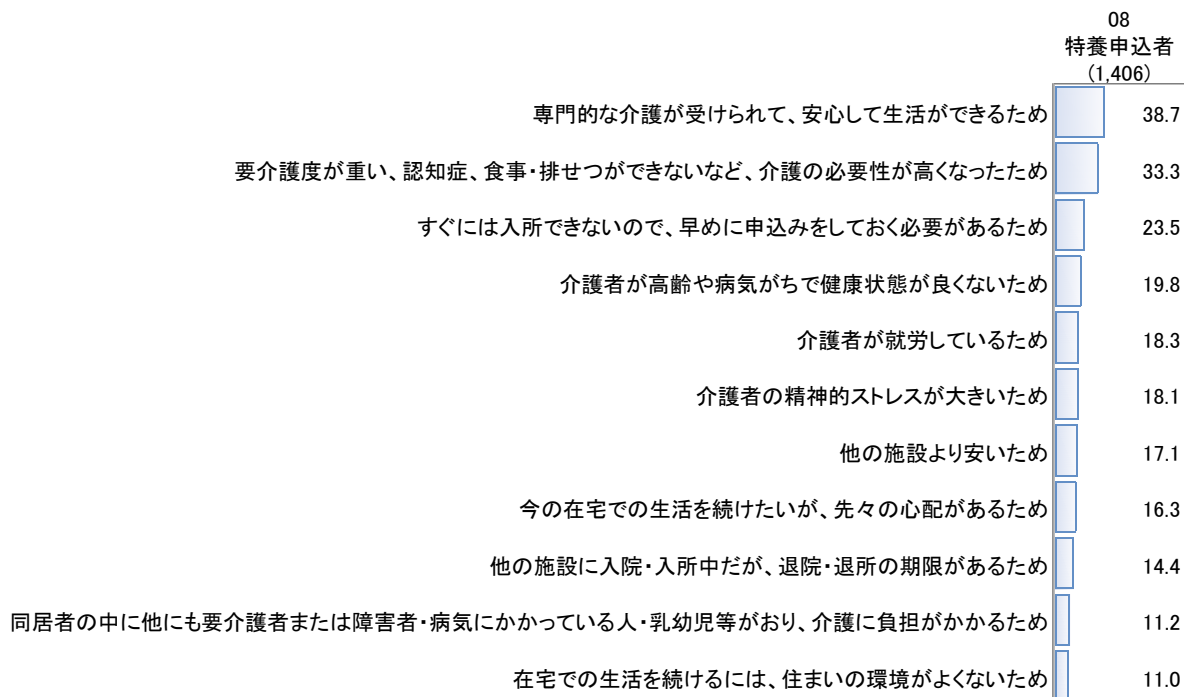
##### ●介護が必要になった場合の暮らし方の希望

- ✓ “高齢者一般” “要介護” では「自宅」を希望する割合が半数を上回っている。
- ✓ “一般 40～64 歳” では「自宅以外」が「自宅」を上回っている。



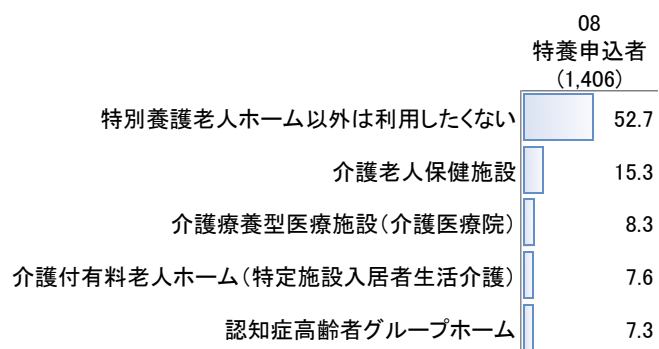
## ●特養を希望する理由

- ✓ 「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができる」が38.7%と最も多く、次いで「要介護度が重い、認知症、食事・排泄ができないなど、介護の必要性が高くなったため」が33.3%となっている。



## ●特養以外のサービスの意向

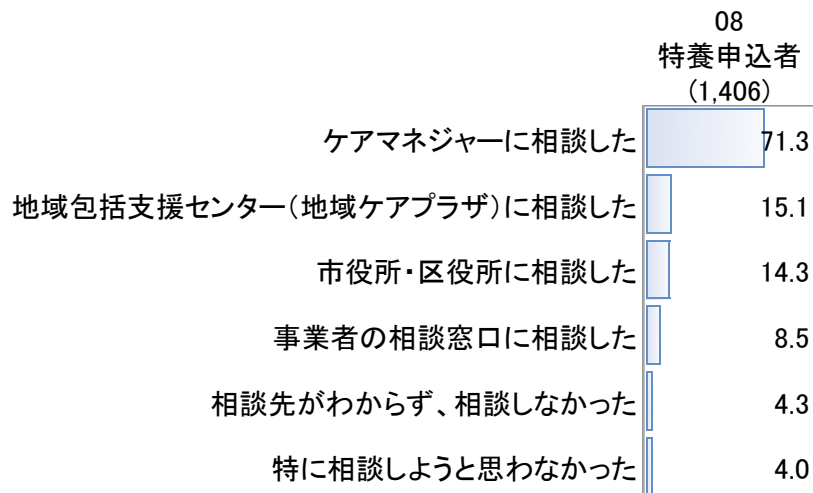
- ✓ 「特養以外は利用したくない」が52.7%と最も多く、「介護老人保健施設」が15.3%、「介護療養型医療施設」が8.3%となっている。



## 2 相談体制・情報提供の充実

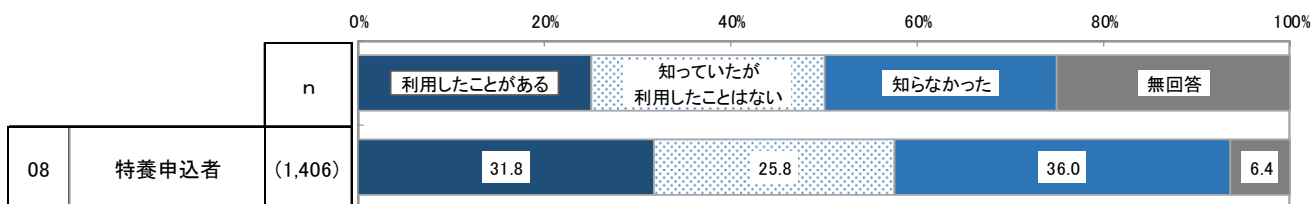
### ●特養申込の相談先

✓ 「ケアマネジャー」が71.3%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」が15.1%となっている。



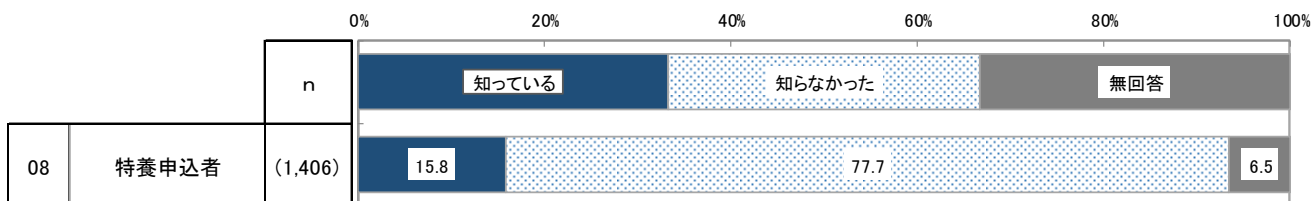
### ●住まいの相談センターの利用状況

✓ 「利用したことがある」が31.8%、「知っていたが利用したことはない」と合わせた『知っている』は57.6%となっている。



### ●住まいの相談センターが行う出張相談の認知度<新規設問>

✓ 「知っている」が15.8%、「知らなかった」が77.7%となっている。

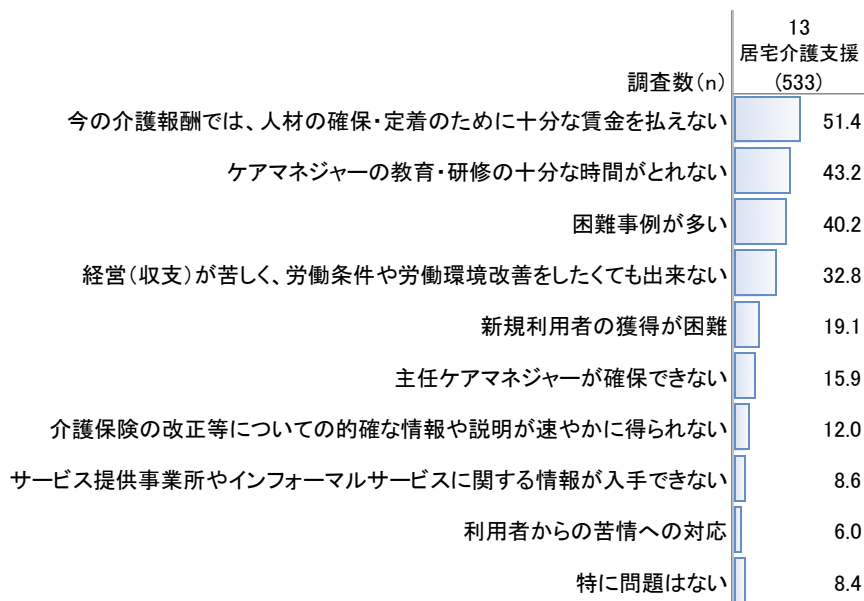
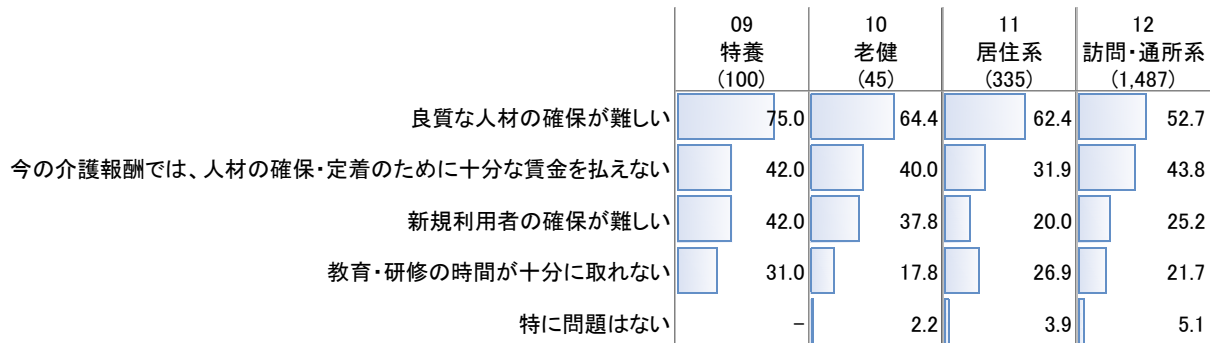


#### IV 安心の介護を提供するために

##### 1 新たな介護人材の確保

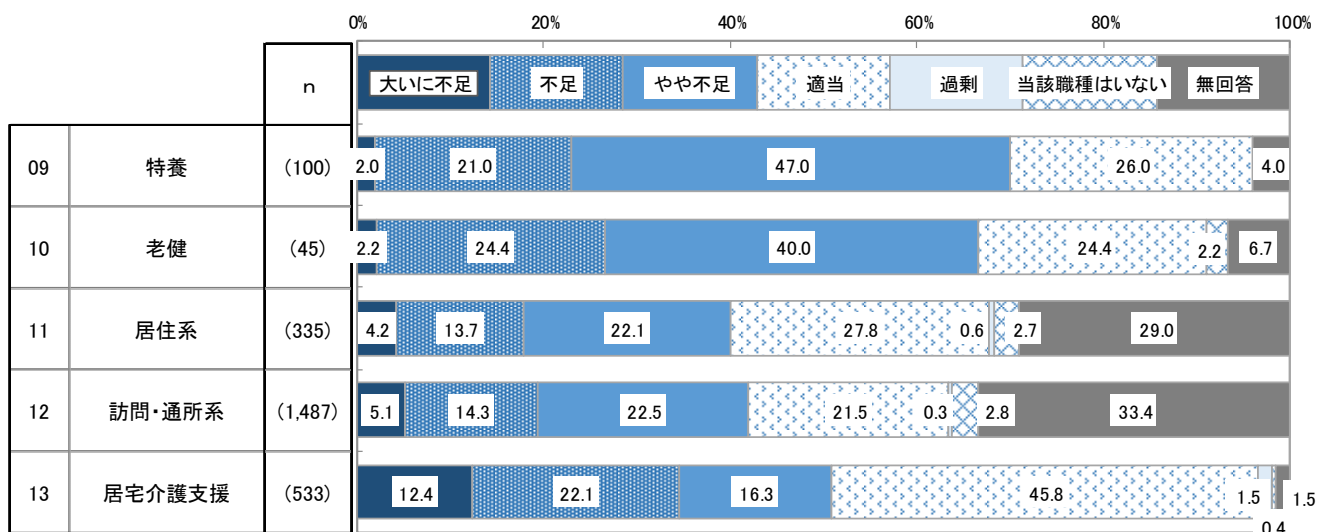
##### ●施設（事業所）運営の問題点（特養、老健、居住系、訪問・通所系、居宅介護支援）

- ✓ 介護サービスを提供している事業所・居宅介護支援事業所のいずれでも「人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」が多く、提供事業所では「良質な人材の確保が難しい」が最も多くなっている。
- ✓ <居宅介護支援>では、「ケアマネジャーの教育・研修の十分な時間がとれない」「困難事例が多い」といった経営以外の実務面での問題点が上位となっている。



●施設（事業所）職員の不足状況（特養、老健、居住系、訪問・通所系、居宅介護支援）

- ✓ 介護サービスを提供している事業所では、「大いに不足」が1割以下となっており、「不足」「やや不足」を合わせた『不足』が、＜特養＞＜老健＞で6割を上回っている。一方で、＜居住系＞＜訪問・通所系＞では、『不足』は半数を下回っている。
- ✓ ＜居宅介護支援＞では、「大いに不足」が1割を上回っているものの、『不足』は50.8%となっている。



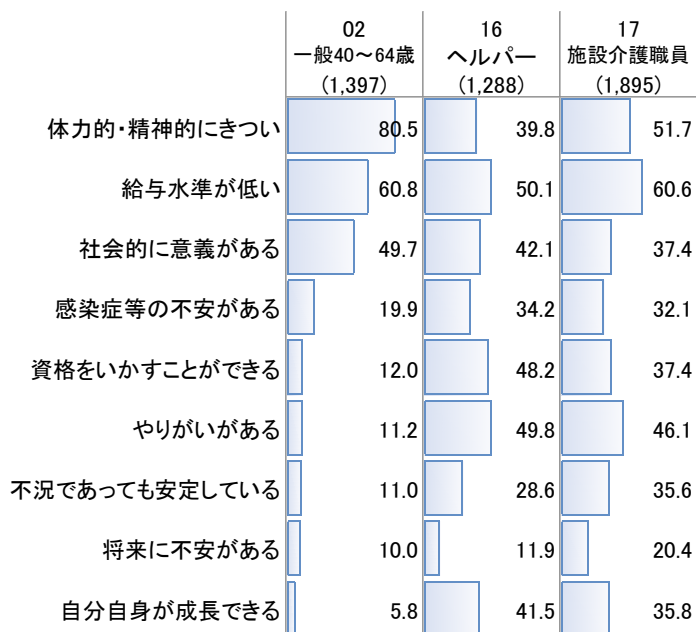
●施設（事業所）職員の不足理由（特養、老健、居住系、訪問・通所系、居宅介護支援）

- ✓ 全ての対象で、「採用が困難」が8割以上を占めている。
- ✓ また、＜特養＞＜老健＞＜居住系＞では「離職率が高い」が約3割となっているものの、＜居宅介護支援＞では1割程度となっている。

施設種別	調査数 (n)	採用が困難である (%)	低い離職率が高い (定着率が) (%)	数事が増大したよって必要人員 (%)
09 特養	(70)	94.3	28.6	5.7
10 老健	(30)	96.7	30.0	10.0
11 居住系	(134)	82.8	32.8	8.2
12 訪問・通所系	(624)	86.1	21.6	10.9
13 居宅介護支援	(271)	80.8	10.7	15.1

●介護職のイメージ（一般 40～64 歳、ヘルパー、施設介護職員）＜新規設問＞

- ✓ <一般 40～64 歳>では「体力的・精神的にきつい」が 80.5%と最も多く、次いで「給与水準が低い」が 60.8%となっている。
- ✓ <ヘルパー><施設介護職員>では「給与水準が低い」が最も多く、<ヘルパー>では「やりがいがある」、<施設介護職員>では「体力的・精神的にきつい」が続いている。



●新規人材の確保に効果的な行政の取組＜新規設問＞（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

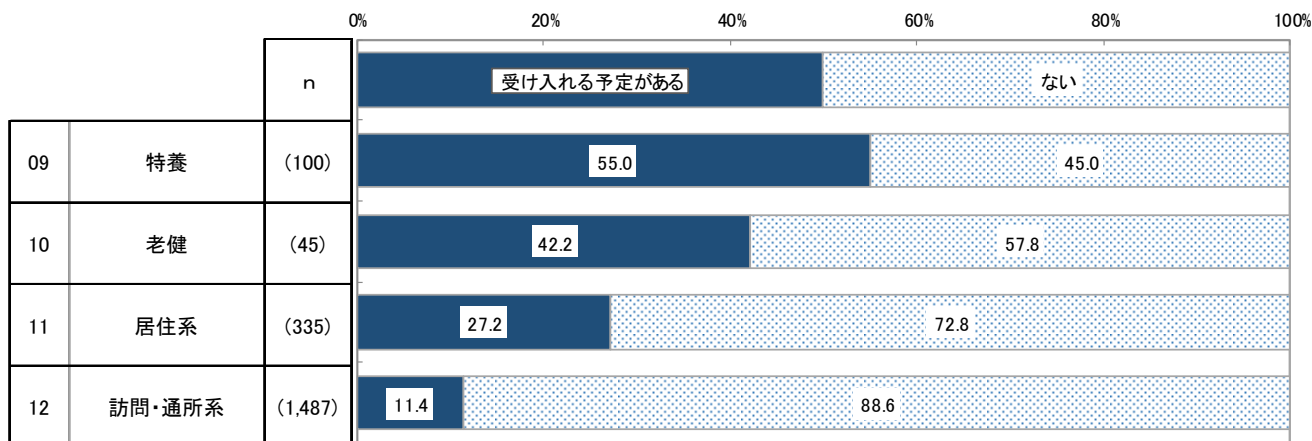
- ✓ 「若い世代に向けた介護業界のイメージアップ」が全ての対象で最も多くなっている。
- ✓ <特養>以外の対象では、「元気高齢者の受入れ支援」が2割を超えている。

調査数 (n)	若い世代に向けた介護業界のイメージアップ	新たに介護業界へ就職をする者が資格取得に関する研修参加をする際の支援	子育て世代が働きやすい環境の整備への支援	軽減へのICT活用による職員の負担軽減	ロボットの導入支援	多様な働き方（時短、夜間のみ、週休3日）の導入支援	職場体験を実施する施設への支援	介護福祉士養成施設に対する財政的支援	潜在介護福祉士の（再）就職支援	外国人介護職員の受入れ支援	介護助手の受入れ支援	合同就職相談会の実施	元気高齢者（ボランティア等）の受入れ支援	自治体からの支援がなくても人材の確保ができていない
09 特養 (100)	79.0	63.0	59.0	57.0	47.0	46.0	45.0	41.0	35.0	33.0	29.0	14.0	2.0	
10 老健 (45)	73.3	53.3	53.3	40.0	40.0	31.1	33.3	37.8	37.8	31.1	11.1	33.3	2.2	
11 居住系 (335)	69.3	49.9	46.9	29.3	55.5	35.2	21.5	22.7	28.1	17.9	8.1	27.5	1.2	
12 訪問・通所系 (1,487)	64.9	43.3	47.5	17.0	41.4	29.6	19.3	19.6	14.6	9.5	8.9	21.5	2.1	



●外国人介護職員の雇用予定（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

- ✓ <特養>では『受け入れる予定がある』が半数を上回っている。
- ✓ 特養以外の施設（事業所）では、『受け入れる予定がある』が半数を下回っており、特に「訪問・通所系」では11.4%となっている。



●外国人介護職員の受入れに効果的な行政の取組<新規設問>

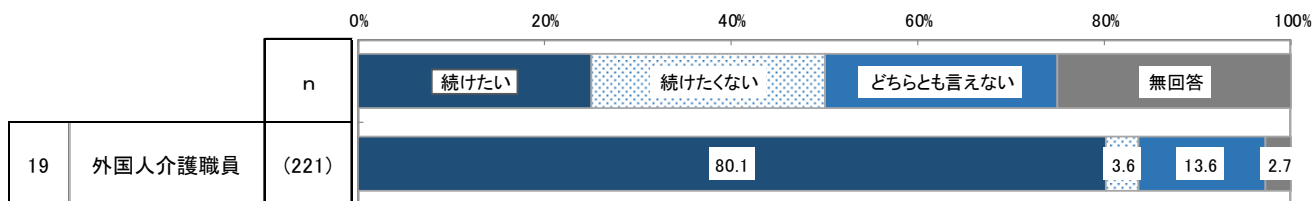
（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

- ✓ <特養><老健>では「受入れにあたり施設にかかる経費の補助等の経済的支援」「外国人介護職員に対する介護に関する研修や日本語研修などの支援」が半数を上回っている。

施設種別	調査数 (n)	効果的な行政の取組 (%)								
		受入れに あたる 経済的 支援 (住居 費等) ※給 与補	外国人 介護 職員 研修 など の 支援	介護 福祉 士 試験 合格 の ため の 支援	外国 人 介護 職員 向け 相談 窓口 等 の 生活	受 入 れ の た め の 入 管 手 続 き な ど の 事 務	シ ョ ン の 方 法 等	受 入 れ の た め の 研 修 ユ ニ ケ ー ス	在 留 資 格 の 違 い の 研 修 や 手 続 き の 流 れ 等 の 理 解	入 れ が で き る 支 援 が な く て も 、 十 分 受
09 特養	(100)	64.0	63.0	46.0	41.0	40.0	36.0	34.0	6.0	
10 老健	(45)	57.8	60.0	35.6	37.8	35.6	37.8	31.1	6.7	
11 居住系	(335)	41.8	50.1	31.3	33.4	33.4	40.3	28.1	2.4	
12 訪問・通所系	(1,487)	31.7	40.1	20.6	25.1	26.0	33.5	25.2	2.5	

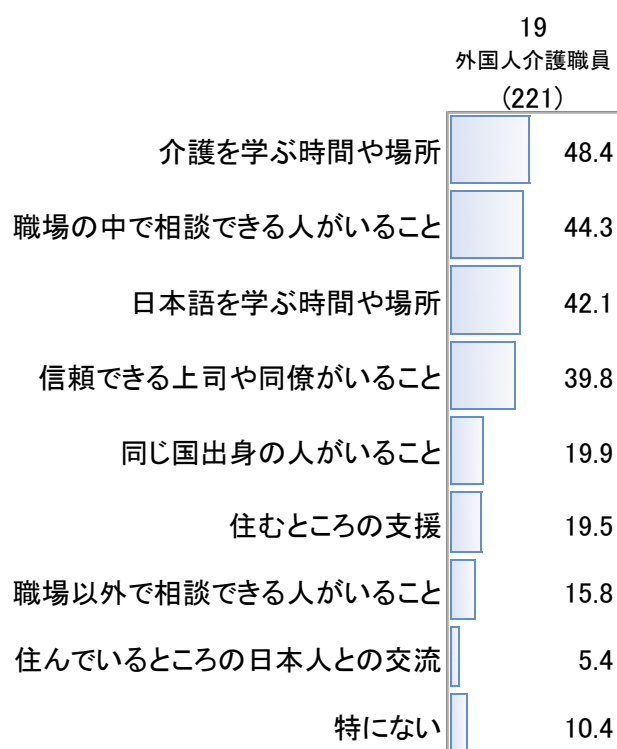
### ●外国人介護職員の就労継続意向（外国人介護職員）

✓ 「続けたい」が80.1%と、「続けたくない」の3.6%を大幅に上回っている。



### ●外国人介護職員が就労を継続するために必要なこと（外国人介護職員）

✓ 「介護を学ぶ時間や場所」が48.4%と最も多く、次いで「職場の中で相談できる人がいること」が44.3%。



## 2 介護人材の定着支援

### ●最も多い離職理由<新規設問> (特養、老健、居住系、訪問・通所系)

- ✓ 介護サービスを提供している事業所いずれでも「他にいい仕事・職場があったため」が最も多くなっており、<特養><老健><居住系>では、「職場の人間関係に問題があった」が続いている。

	09 特養 (100)	10 老健 (45)	11 居住系 (335)	12 訪問・通所系 (1,487)
他に良い仕事・職場があったため	35.0	44.4	18.2	14.0
職場の人間関係に問題があったため	19.0	13.3	13.4	6.2
自分(離職者)に向かない仕事だったため	8.0	2.2	9.3	10.3
病気・高齢のため	7.0	6.7	13.1	12.2

### ●在職職員の定着に向けた効果的な行政の取組<新規設問>

#### (特養、老健、居住系、訪問・通所系)

- ✓ 全ての対象で「キャリアアップに資する研修の実施、参加への支援」が半数を上回っている。
- ✓ <特養><老健>では、「子育て世代が働きやすい環境の整備支援」が続いている。

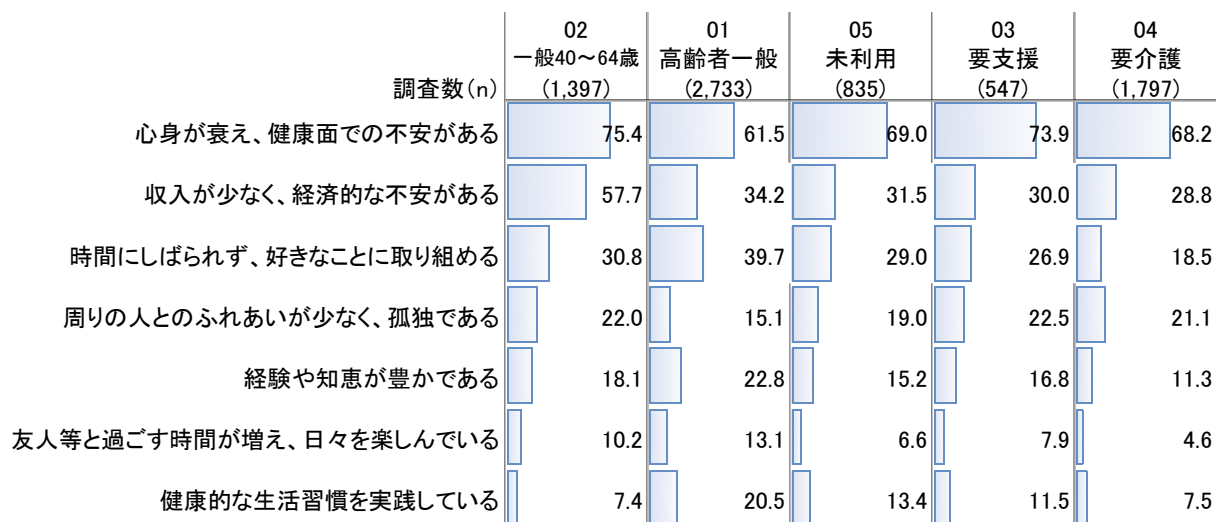
		(%)									
調査数 (n)		実施、キャリアアップへの支援(含む)	子育て世代が働きやすい環境の整備支援	ロボットのICT等の導入支援	参加しやすい研修の実施(出前研)	多様な働き方の導入支援、夜間のみ、週休3日)	介護職員に対する悩み相談窓口の設置	介護の職場におけるハラスメントの啓発・研修の実施	若手職員等の交流の推進など、横	自治体からの支援がなくても定着を図ることができ	
09	特養 (100)	74.0	65.0	61.0	53.0	49.0	39.0	33.0	33.0	2.0	
10	老健 (45)	62.2	57.8	42.2	44.4	48.9	17.8	17.8	20.0	2.2	
11	居住系 (335)	63.3	49.0	28.7	54.6	50.1	37.9	30.7	32.2	0.9	
12	訪問・通所系 (1,487)	51.3	47.2	17.0	46.1	40.7	28.3	20.9	25.5	2.8	

## V 地域包括ケアの実現のために

### 1 高齢期の暮らしについて、準備・行動できる市民を増やすために

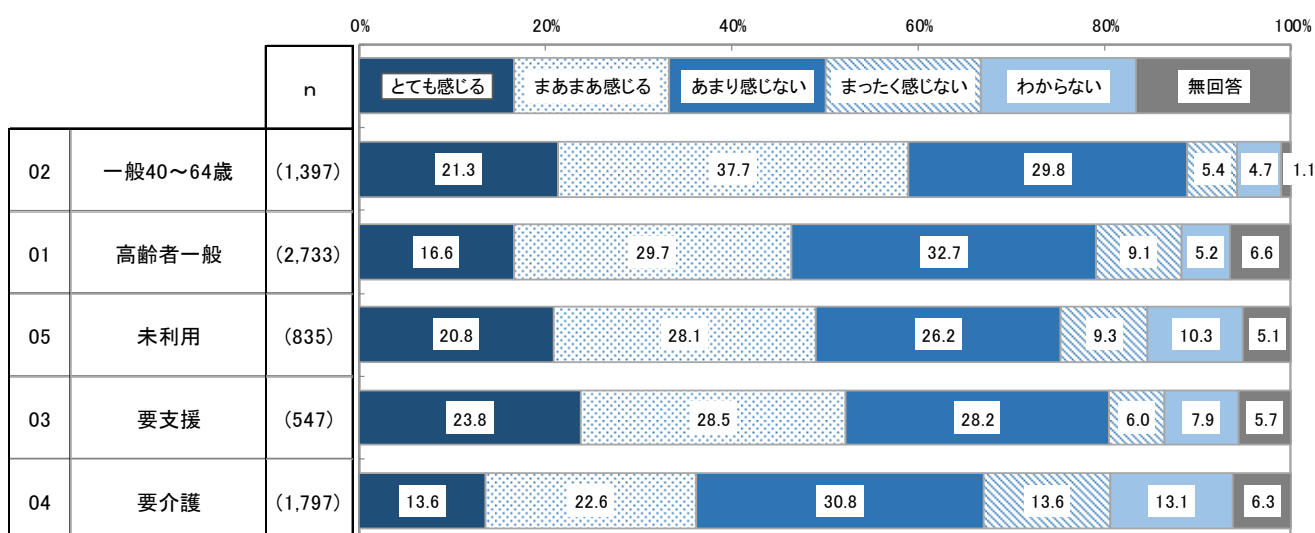
#### ●高齢期のイメージ<新規設問>

- ✓ 全ての対象で、「心身が衰え、健康面で不安がある」が最も多くなっている。
- ✓ <一般 40～64 歳>では、「収入が少なく、経済的な不安がある」が 57.7%となっているものの、それ以外の対象では約 3 割となっている。



#### ●孤独死に対する意識（身近な問題と感じているか）

- ✓ <一般 40～64 歳>では、「とても感じる」「まあまあ感じる」の合計が 59.0%と最も多くなっている。
- ✓ <要介護>では「まったく感じない」「あまり感じない」の合計が 44.4%と、「とても感じる」「まあまあ感じる」の合計の 36.2%を上回っている。



## ●人生の最終段階に向けた心づもり（意思表示の方法）

- ✓ <一般 40～64 歳>では、「とくにしていない」が 74.9%と最も多い。
- ✓ <一般 40～64 歳>以外では、「家族と話し合っている」が約 4 割をしめている。

		(%)							
		調査数 (n)	家族と話し合っている	かかりつけ医に希望を伝えている	エンディングノートを作成している	もしも手帳を書き記している	リビングウィルを作成している	遺言状を作成している	特にしていない
02	一般40～64歳	(1,397)	20.5	0.4	3.2	0.7	0.9	0.4	74.9
01	高齢者一般	(2,733)	41.0	1.7	7.0	1.6	1.6	4.2	50.0
05	未利用	(835)	39.6	4.1	6.7	3.4	3.4	7.3	44.1
03	要支援	(547)	39.5	5.5	9.1	3.3	3.5	7.3	43.0
04	要介護	(1,797)	34.1	5.2	3.2	1.7	2.3	5.6	51.5

## 2 高齢者にやさしい安心のまちづくり・ICT を活用した環境整備

### ●介護施設（事業所）における介護ロボットの導入状況（特養、老健、居住系）

- ✓ <特養><老健>では、「車いす体重計」「ストレッチャー」「ベッド」「特殊浴槽」を導入している施設が半数を上回っており、「いずれも導入していない」はゼロとなっている。
- ✓ 一方で、“居住系”では、最も多い「ベッド」が 68.4%となっており、他の機器については半数を下回っている。

		(%)													
		調査数 (n)	車いす体重計	ストレッチャー（入浴用を含む）	ベッド（傾斜・角度、高さ調整できるもの。マットレスは除く）	可能な移動用リフト（側面が開閉可能なもの）	特殊浴槽（移動用リフトと共用）	いたりフット部分のみ）	車両の場合、車両本体を福祉除	シャワーキャリー	（含む）	移動用リフト（立位補助機能）	昇降装置（人の移動に使用するものに限る）	座面昇降機能付車いす	いずれも導入していない
09	特養	(100)	91.0	86.0	85.0	75.0	58.0	58.0	21.0	8.0	5.0	-			
10	老健	(45)	86.7	71.1	82.2	77.8	46.7	48.9	11.1	6.7	2.2	-			
11	居住系	(335)	43.6	23.9	68.4	24.5	26.9	42.4	1.8	7.8	3.3	3.3			

### ●介護施設（事業所）における ICT 機器の導入状況（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

- ✓ <特養><老健>では、「利用者情報の PC による共有」が最も多く半数を上回っているものの、<居住系><訪問・通所系>では半数を下回っている。
- ✓ 「いずれもしていない」は<特養>で 7.0%となっており、<居住系><訪問・通所系>では 2 割を上回っている。

		(%)										
		調査数 (n)	利用者情報の PC による共有	記録から介護保険請求システムまで一貫通貫するシステムの利用	利用者情報のタブレットによる共有	給与計算、システム管理、勤怠管理を一元化したシステムの利用	報告・連絡・相談	グループウェア等のシステムによる	情報共有システムを用いた他の事業者との連携	他の事業者とのデータ連携によりケ	アプリやサービスの提供等	いずれもしていない
09	特養	(100)	83.0	60.0	47.0	26.0	13.0	8.0	4.0	7.0		
10	老健	(45)	68.9	55.6	42.2	24.4	13.3	8.9	6.7	15.6		
11	居住系	(335)	42.7	26.3	28.1	26.0	14.9	10.1	3.9	27.8		
12	訪問・通所系	(1,487)	38.7	44.6	25.2	20.3	16.3	11.6	15.1	22.6		

### ●介護施設における介護ロボット・ICT 機器の導入課題（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

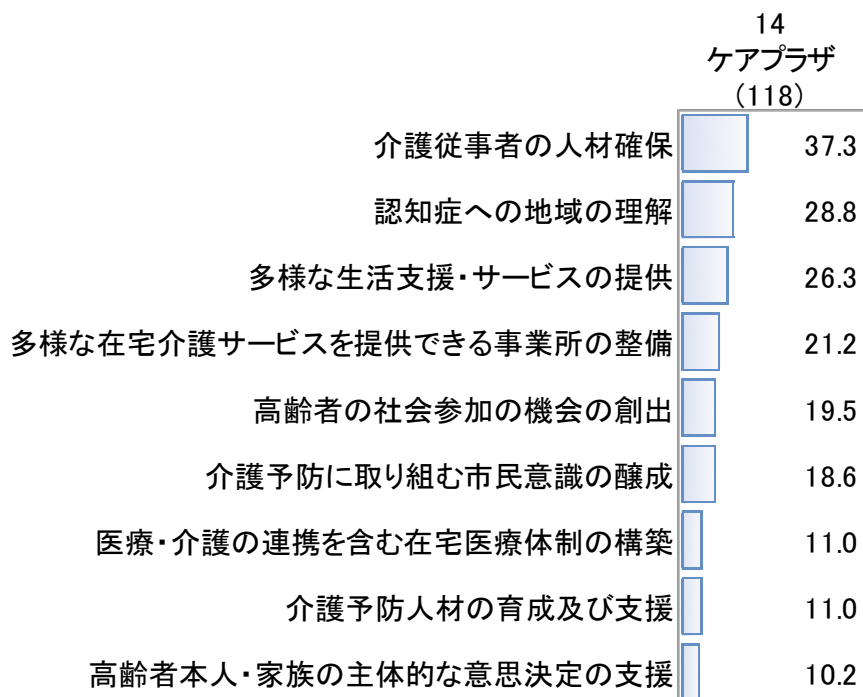
- ✓ <特養><老健><居住系>では、「導入コストが高い/予算がない」が最も多く半数を上回っている。
- ✓ <訪問・通所系>では、「技術的に使いこなせるか心配である」が最も多くなっている。

		(%)											
		調査数 (n)	導入コストが高い/予算がない	技術的に使いこなせるか心配である	清掃や消耗品管理などの維持管理が大変である	投資に見合うだけの効果がない	設置や保管等に場所をとられてしまう	誤作動の不安がある	介護現場の実態に合うロボットや ICT 機器がない	介護現場のロボットや ICT 機器が活用されていない	どの様な介護ロボットや ICT 機器があるかわからない	違和感を覚える	課題・問題は特にな
09	特養	(100)	79.0	50.0	37.0	35.0	28.0	26.0	17.0	10.0	8.0	2.0	
10	老健	(45)	88.9	46.7	17.8	26.7	28.9	20.0	15.6	13.3	13.3	-	
11	居住系	(335)	61.5	43.6	23.9	17.6	24.8	22.7	9.9	19.1	17.3	6.9	
12	訪問・通所系	(1,487)	33.9	36.4	21.9	11.0	9.8		10.7	18.4		17.0	

### 3 介護サービスの適正な量の提供および質の向上

#### ●地域包括ケアシステムの構築に向けた優先課題（ケアプラザ）

- ✓ 「介護従事者の人材確保」が 37.3%と最も多く、次いで「認知症への地域の理解」が 28.8%となっている。



#### 4 高齢者が適切な制度・サービスを選択できるための広報、情報提供

##### ●デジタル機器の使用経験<新規設問>

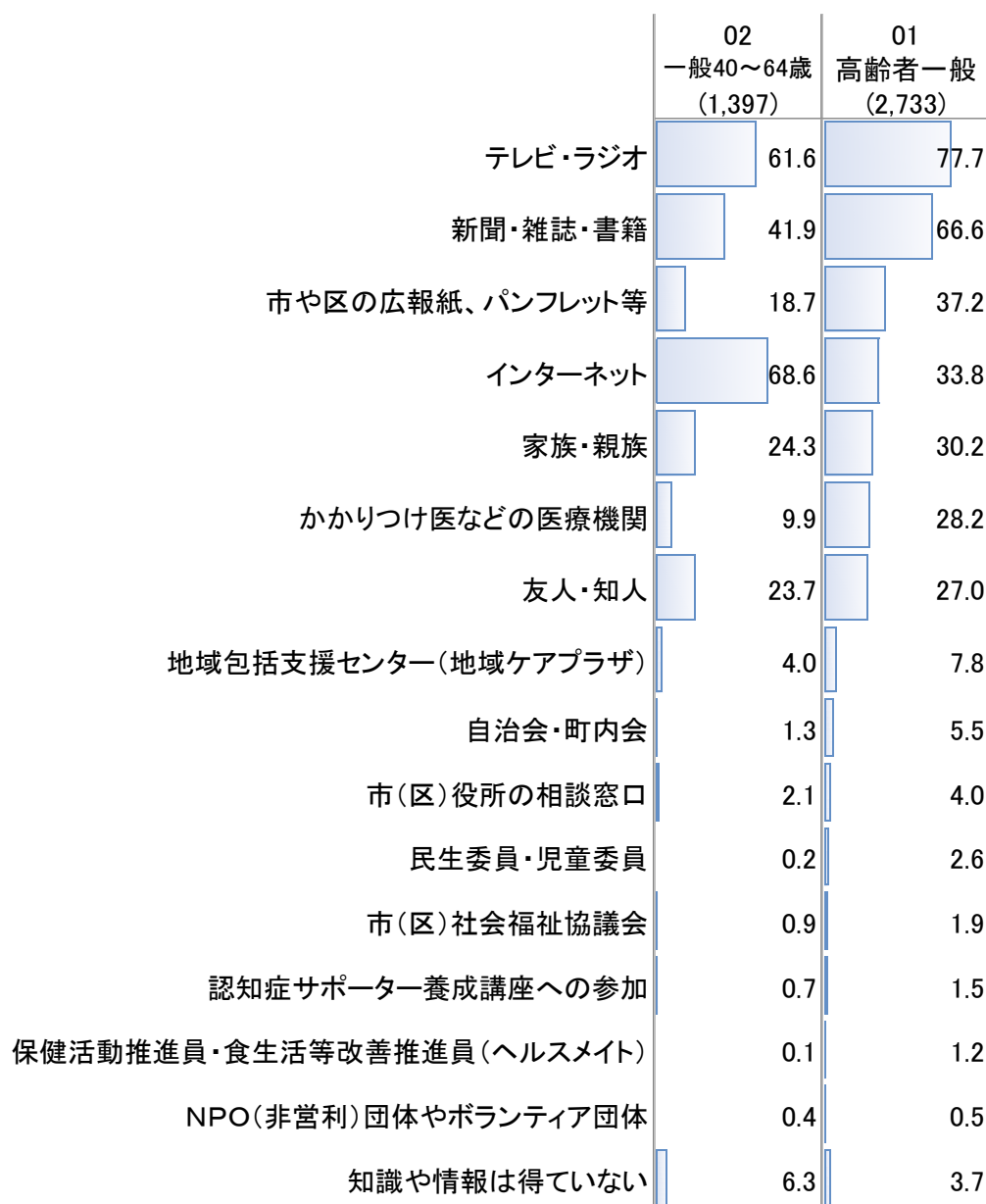
- ✓ <一般 40～64 歳><高齢者一般>では、「メール」「LINE 等の無料通話アプリ」が半数を上回っており、特に<一般 40～64 歳>では「地域防災拠点など防災に関する検索」を除く全てで6割を上回っている。
- ✓ 一方で、要支援・要介護認定を受けている人では、全ての経験が半数を下回っている。

	02 一般40～64歳 (1,397)	01 高齢者一般 (2,733)	05 未利用 (835)	03 要支援 (547)	04 要介護 (1,797)	06 小多機・看多機 (483)	07 定期巡回 (233)
メール	95.6	72.4	42.8	45.0	26.3	20.1	16.3
LINE(ライン)等の無料通話アプリ	89.8	57.6	28.3	34.9	15.4	13.5	8.2
ネットショッピング	85.0	34.9	11.3	10.6	6.6	3.9	2.1
アプリの取得	82.4	32.5	8.1	7.3	4.5	2.5	0.9
近所の病院や歯科医院などの検索	81.4	39.9	16.5	11.5	7.0	3.7	2.1
二次元バーコードの表示・読み取り	78.5	27.0	5.7	5.5	2.9	1.2	0.9
フリーWi-Fiへの接続	69.6	27.1	8.1	7.1	4.6	1.9	2.1
行政のオンライン申請・申込 (新型コロナウイルスワクチン接種の予約など)	69.4	31.2	7.7	5.7	4.6	1.0	1.7
地域防災拠点など防災に関する検索	37.8	13.2	5.1	3.1	2.1	0.8	0.4



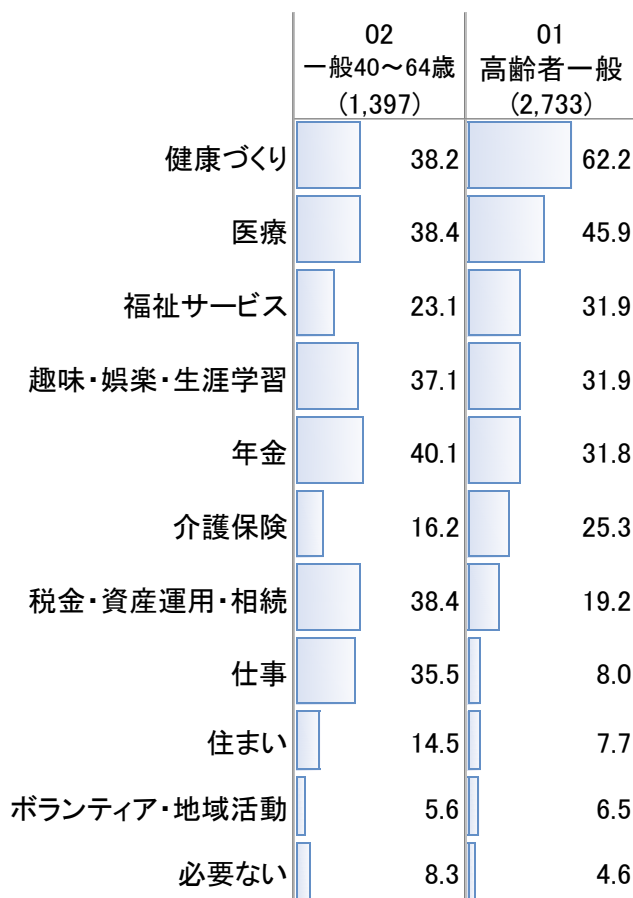
## ●健康づくり等の情報の入手方法

- ✓ <高齢者一般>では、「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで「新聞・雑誌・書籍」となっている。
- ✓ 一方で、<一般40～64歳>では、「インターネット」が最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」となっている。



## ●生活に必要な情報

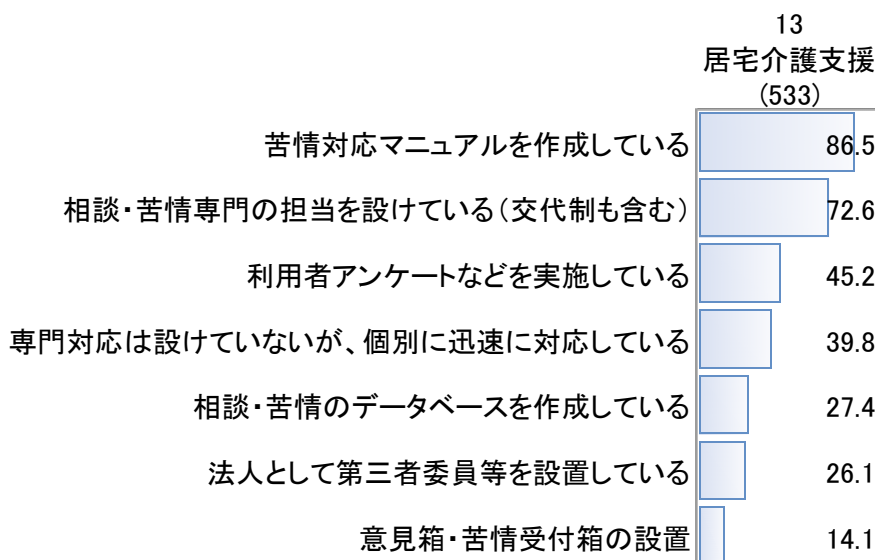
- ✓ <高齢者一般>では、「健康づくり」が最も多く、次いで「医療」となっている。
- ✓ 一方で、<一般40～64歳>では、「年金」が最も多く、次いで「医療」「税金・資産運用・相続」となっている。



## 5 苦情相談体制の充実

### ●居宅介護支援事業所の利用者からの相談・苦情等の対応（居宅介護支援）

- ✓ 「苦情対応マニュアルを作成」が86.5%と最も多く、次いで「相談・苦情専門の担当を設けている」が72.6%となっている。



### ●職員による利用者へのハラスメント防止の取組（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

- ✓ 全ての対象で、「研修などへの参加を促すとともに、研修内容を全職員に展開している」が最も多く、<特養><老健>では「全職員のストレス状況を把握し、未然防止に役立っている」が続き、<居住系><訪問・通所系>では「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」が続いている。

		(%)								
	調査数（n）	開も研 して修 いるな 研修ど 内容への 参加を 全職員 に展と	てニミ いるア アルテ 等をイ ング を全 職員 で虐 待防 止し マ	なっ て全 職員 への 啓 発活 動を おこ な	講 師を 招い て、 研 修を 行う おこ な	す で分 析し 、要 因に つい て共 有	他 施 設 の 事 例 等 を 全 職 員 間	し、 全 職 員 の ス ト レ ス 状 況 を 把 握	え 気 軽 に 相 談 が で き る 窓 口 を 整	特 に 行 っ て い な い
09	特養	(100)	85.0	37.0	16.0	14.0	56.0	48.0	1.0	
10	老健	(45)	71.1	33.3	13.3	11.1	51.1	44.4	2.2	
11	居住系	(335)	80.3	68.7	9.9	15.5	45.1	43.0	1.2	
12	訪問・通所系	(1,487)	64.6	54.8	6.3	8.5	32.2	36.2	4.4	

### ●利用者による職員へのハラスメント防止の取組（特養、老健、居住系、訪問・通所系）

- ✓ <特養><老健>では「暴力やハラスメントがあった場合は、施設として対応できる環境を整えている」が最も多く、<居住系><訪問・通所系>では「日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている」が最も多くなっている。

		(%)							
	調査数（n）	整は暴 え、力 施設や とハ ラス メン トに 対 応 で き る 環 境 を 合	てら日 え々 の情 報を 共 有 で き る 小 さ な 変 化 を と	る気 軽 に 相 談 で き る 窓 口 を 整 え て い	未 然 防 止 に 努 め て い る	契 約 条 項 な ど に ハ ラ ス メ ン ト に 対	複 数 人 対 応 を 基 本 と し て い る	特 に 行 っ て い な い	
09	特養	(100)	63.0	62.0	52.0	51.0	28.0	-	
10	老健	(45)	62.2	55.6	51.1	51.1	26.7	4.4	
11	居住系	(335)	46.9	72.2	48.1	53.1	29.6	1.5	
12	訪問・通所系	(1,487)	42.2	63.2	41.8	44.2	24.2	4.2	

## VI 感染症・自然災害への対応

### 1 緊急時に備えた体制整備・物資調達

#### ●要支援・要介護の方が、平時から実施している防災対策<新規設問>

- ✓ 全ての対象で、「備蓄をする」が最も多くなっている。
- ✓ <要支援>では、「何もしていない」が26.9%となっているものの、<要介護>では42.4%となっている。

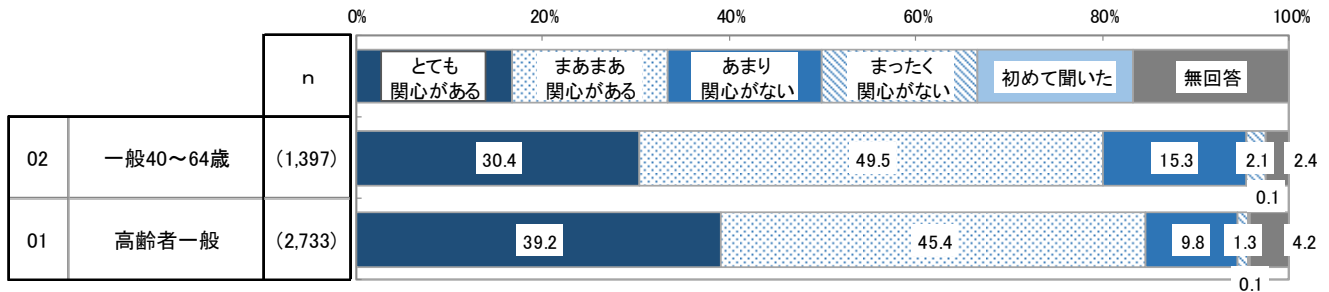
		(%)						
		調査数 (n)	備蓄 をする	地域 防災 拠点の 確認	防災 に関する HPや 資料 を読む	周り の人と 話し 合う	地域 の防災 訓練の 参加	何も して いない
03	要支援	(547)	47.0	21.4	20.3	18.1	12.4	26.9
04	要介護	(1,797)	33.8	17.0	12.4	12.8	7.6	42.4

## 認知症施策に係る結果

### 1 正しい知識・理解の普及

#### ●認知症への関心度

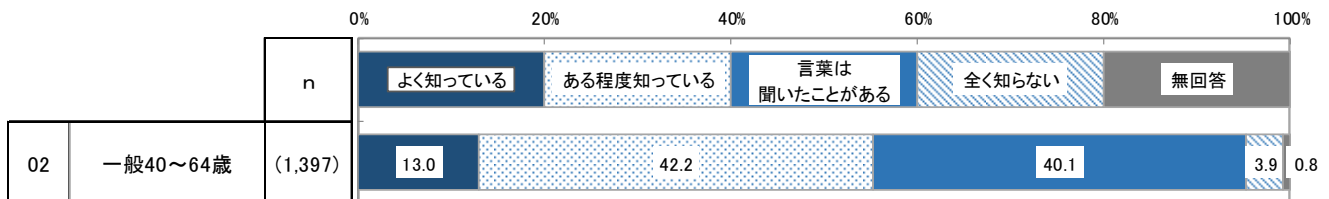
✓ 全ての対象で、「とても関心がある」「まあまあ関心がある」の合計が約8割となっている。



### 2 予防・社会参加

#### ●若年性認知症の認知度

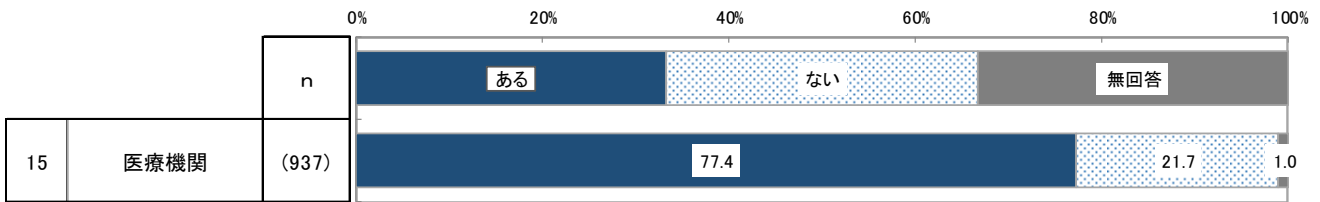
✓ 「よく知っている」「ある程度知っている」の合計が55.2%となっており、「全く知らない」は3.9%となっている。



### 3 医療・介護

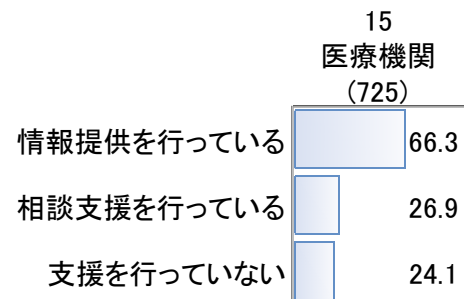
#### ●医療機関での認知症患者への対応状況（医療機関）＜新規設問＞

✓ 認知症患者を診療する機会が「ある」は77.4%



#### ●医療機関での認知症患者への支援内容（医療機関）

✓ 「情報提供」が66.3%と最も多く、次いで「相談支援」が26.9%となっている。



#### ●認知症患者の医療連携を進める上で必要なこと（ケアマネジャー）

✓ 「認知症の行動心理症状が悪化したときに入院できる病院があること」が70.9%と最も多く、次いで「身体の症状が急変したときに入院できる病院の相談ができること」が68.3%となっている。

